



史跡

平出遺跡

—平成20年度史跡等総合整備活用推進事業に係る発掘調査概報—

2010年3月

塩尻市教育委員会

史 跡

平 出 遺 跡

—平成20年度史跡等総合整備活用推進事業に係る発掘調査概報—

目 次

1	発掘調査の目的と方法	1
2	発掘調査の経過	3
3	遺跡の層序	3
4	調査概要	4
5	遺構と遺物	6
6	まとめ	26

例言・凡例

- 1 本書は、平成20年度史跡平出遺跡史跡等総合整備活用推進事業に係わる発掘調査報告書である。
 - 2 発掘調査は、国庫及び県費の補助を受け、塩尻市教育委員会が実施した。
地域での調査は、平成20年7月15日から平成21年3月12日まで行われた。
 - 3 調査指導
塩尻市史跡平出遺跡整備委員会
委員長 戸沢 充則（明治大学名誉教授）
副委員長 桐原 健（長野県文化財保護審議会委員）
委員 小林 達雄（國學院大學名誉教授）
宮本長二郎（別府大学客員教授）
佐々木邦博（信州大学教授）
辻 誠一郎（東京大学教授）
 - 4 本書の執筆・編集
小林康男、塩原真樹
 - 5 本報告書に係る出土品・諸記録は、塩尻市立平出博物館で保管している。
 - 6 本報告書の縮尺率について、遺構図は1/60を、遺物の拓本図は1/3を基本としている。
 - 7 縄文土器の年代観については、『長野県史』考古資料編全1巻（四）遺構・遺物によっている。
-



調査区全景

1 発掘調査の目的と方法

(1) 発掘調査の目的

昭和 27 年に国史跡に指定された平出遺跡は、昭和 52 年、「史跡平出遺跡保存管理計画書」が策定され、永久保存地区・現状変更許容地区のエリア設定、用地の公有化および整備・活用の推進など保存管理の基本的方針が決定された。

この計画に基づき、塩尻市では、平成 9 年度から平成 19 年度までの継続事業として永久保存地区を中心とした約 5.6ha の用地の公有化事業を実施した。また、平成 11 年度には塩尻市史跡平出遺跡整備委員会（委員長 戸沢充則）を発足し、整備・活用計画の検討を進め、平成 13 年度に整備基本計画を策定した。整備基本計画では、平出遺跡およびその周辺を、「導入部」「縄文の村地区」「古代の農村地区」「ガイダンス地区」「体験学習施設地区」の 5 地区を設定した。整備は、平成 15 年度から年次計画により、「縄文の村地区」「ガイダンス地区」「古代の農村地区」の順に進めることになり、平成 15 年度から 17 年度にかけて「縄文の村地区」の整備、平成 18 年度には「ガイダンス地区」の整備、平成 19、20 年度は「古代の農村」古墳時代地区の整備、そして平成 21 年度は「古代の農村」平安時代地区の整備として竪穴式住居 3 棟の建築を行った。

整備を進めるにあたっては、発掘調査を整備の重要な要素と位置づけ、「各時代の集落構造・社会構造の解明」を目指し、「整備対象遺構の選定資料」を得ることを目的としている。発掘調査では、①遺構・遺物の状況の把握、②時代別の特徴の把握、③「平出の地」の重層性の明確化、④史跡整備に必要な情報の整理を主たる調査項目にあげている。

発掘調査は整備の第 1 段階にあたり、「遺構確認の必要な地区に対し発掘調査を行い、その成果を踏まえ各地区を順次整備していく」とし、発掘調査結果を基にして整備計画を策定することになっている。



第 1 図 平出遺跡発掘調査区位置図

(2) 発掘調査区域の設定

発掘調査区域の設定にあたっては、公有化が完了した区域であり、且つ整備年次別計画の順序に基づき設定している。

平成 20 年度の発掘調査区域は、「縄文の村」整備地区にあっている。「縄文の村」地区の整備基本計画では、縄文時代中期の集落景観を再現することとしている。

この「縄文の村」地区は、生活復元エリアと廃絶集落エリアに分けられ、このうち生活復元エリアについては、平成 14 年度および 16 年度に対象範囲の発掘調査が実施され、その成果を元に竪穴式住居 7 棟の復元などが行われ、現在一般公開している。

廃絶集落エリアの設定については、一定期間、集落が営まれた後に、隣接する地域に新たな集落が営まれたという、縄文時代の集落の動きを表現するため、生活復元エリアの東側が整備箇所となっている。このため今回の発掘調査では、平成 14、16 年度の調査地区の東側を調査区域として設定した。

発掘調査の方法としては、より多くの情報を得るため表土からすべて人力による掘り下げを行い、なるべく高い位置での遺構の検出に努め、当時の地形復元を行う観点から生活面を把握することに重点をおいた。調査にあたっては、原則として 4 × 4 m のグリッドを設定してその内部を発掘する方法をとった。各グリッド間のベルト部分は、現地表面から遺構検出面までの土層観察を行えるようにし、将来の調査において再検討できるよう配慮した。

遺構に関しては、土器が大量廃棄された住居址の検出や、住居址の環状配置の様子を調査目的としているため、検出作業を行った後、大量廃棄が予想される住居址については覆土の掘り下げを、それ以外の住居址は範囲の検出で調査をとどめた。住居址以外の土坑などについても、位置などの情報を記録するだけとし、内部の半裁・完掘は行っていない。また、今回の調査で唯一見つかった平安時代の H-162 号住居址に関しても、整備対象時期と異なるため、詳細な調査は行わなかった。このように調査では、今後の再調査も念頭に置いた必要最低限の調査にとどめたため、調査区内に未掘の遺構が残されていることを明記しておきたい。

遺物の取り上げに関しては、住居址から出土した遺物については、覆土の上層から出土したものに限り、その位置と高さを記録して取り上げ、遺構外から出土した遺物に関しては、小グリッド単位で取り上げを行った。

調査区の埋め戻しは、掘り下げた箇所に遺構保護のため砂を一定の厚さまで入れ、その上に土を戻し入れる方法をとった。

調査にあたり区域内に設定したグリッドは、平出遺跡内に設定してある 30 m 方眼の大グリッドを基準にしており、この大グリッドを東西及び南北に 10 分割して 3 m 方眼の小グリッドを設定している。グリッドの呼称は、東西方向を算用数字、南北方向をアルファベットとし、アルファベットは小文字で表記している。

記録は、遺構平面図、遺構セクション図については、原則として 1/20 の縮尺で行い、遺物出土状況図などは 1/10 の縮尺で行った。遺構写真は、35 mm のカラーリバーサルとデジタルカメラを使用した。

2 発掘調査の経過

発掘機材の搬入および調査区の設定を行い、発掘調査を開始。なお、調査に関する作業はすべて手作業で行った。最初に着手した作業は、設定された調査区の表土除去作業である。この耕作土である表土は15～25cmほどあり、遺物も頻繁に出土したため、作業はより慎重に行われた。表土除去作業が終了し、暗褐色土層および褐色土層が現れ、これらの土層内に遺構検出面が存在していた。遺構検出面では、現在ではほぼ平坦に見える地形も旧地形は多少起伏があったことがわかるなど、人力作業により表土から掘り下げを行ってきた成果といえる。

検出作業により判明した遺構のうち、整備対象となる縄文時代の住居址について重点的に調査を実施した。検出段階で上層から大量の遺物が出土し、土器廃棄の状態が確認できる可能性があった住居址（J-79号住居址）については、東西・南北にセクションベルトを設定し、さらに掘り下げを行った。その他の住居址については、検出面での住居址範囲の確認を、遺物についても検出面レベルでの覆土から顔を出しているものについてのみ位置を記録し、取り上げを行った。ピットや土坑に関しても、検出された輪郭を記録するにとどめ、掘り下げは行っていない。

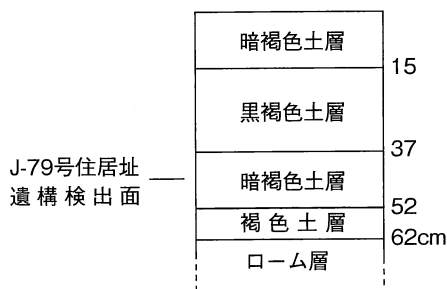
こうした遺構は、写真や平面図等の記録を取り、調査区周辺も含めた全景写真はラジコンヘリにより空中から撮影を行った。

すべての調査を完了した時点で、調査区の埋め戻しを行ったが、埋め戻しの際には遺構内に砂を入れ、遺構保護層を設けた。その後バックホーを使用して調査区内の埋め戻しを実施した。

3 遺跡の層序

調査区の現況は農地であったこともありほぼ平坦な印象を受けるが、過去の縄文の村西側地区の調査区域と同様、今回の発掘調査区域においても、東側に向かって緩やかに傾斜する地形となっている。

基本層序としては、暗褐色土層→褐色土層（漸移層）→ローム層となり、部分的に暗褐色土層の中に黒褐色土層を挟む箇所も認められた。しかしながら今回の調査区一帯は、長年良好な畑作地帯として利用されていたため、耕作による攪乱を広い範囲に認めることができ、攪乱の深度も場所によっては遺構検出面のさらに下まで及んでいた。そのため調査区内の遺構についても一部破壊を受けた箇所が認められ、上層の覆土についても自然堆積の状態を保っていない箇所が見受けられた。



第2図 層序

今回も含め、史跡整備に伴う平出遺跡の発掘調査においては、当時の生活面がどの高さにあったのかを把握することに努めている。調査を進めた結果、暗褐色土層から住居址の掘り込みが確認されており、同層内を中心に生活面が存することが確認された。

この成果を史跡整備に生かし、当時の生活面を基準とした地形復元をしていくこととなっている。

4 調査概要

平成 20 年度調査地区は「縄文の村」の廃村整備地区にあたり、1,000 m²の範囲で調査が行われた。その結果、縄文時代 15 軒、平安時代 1 軒の住居址が検出された。

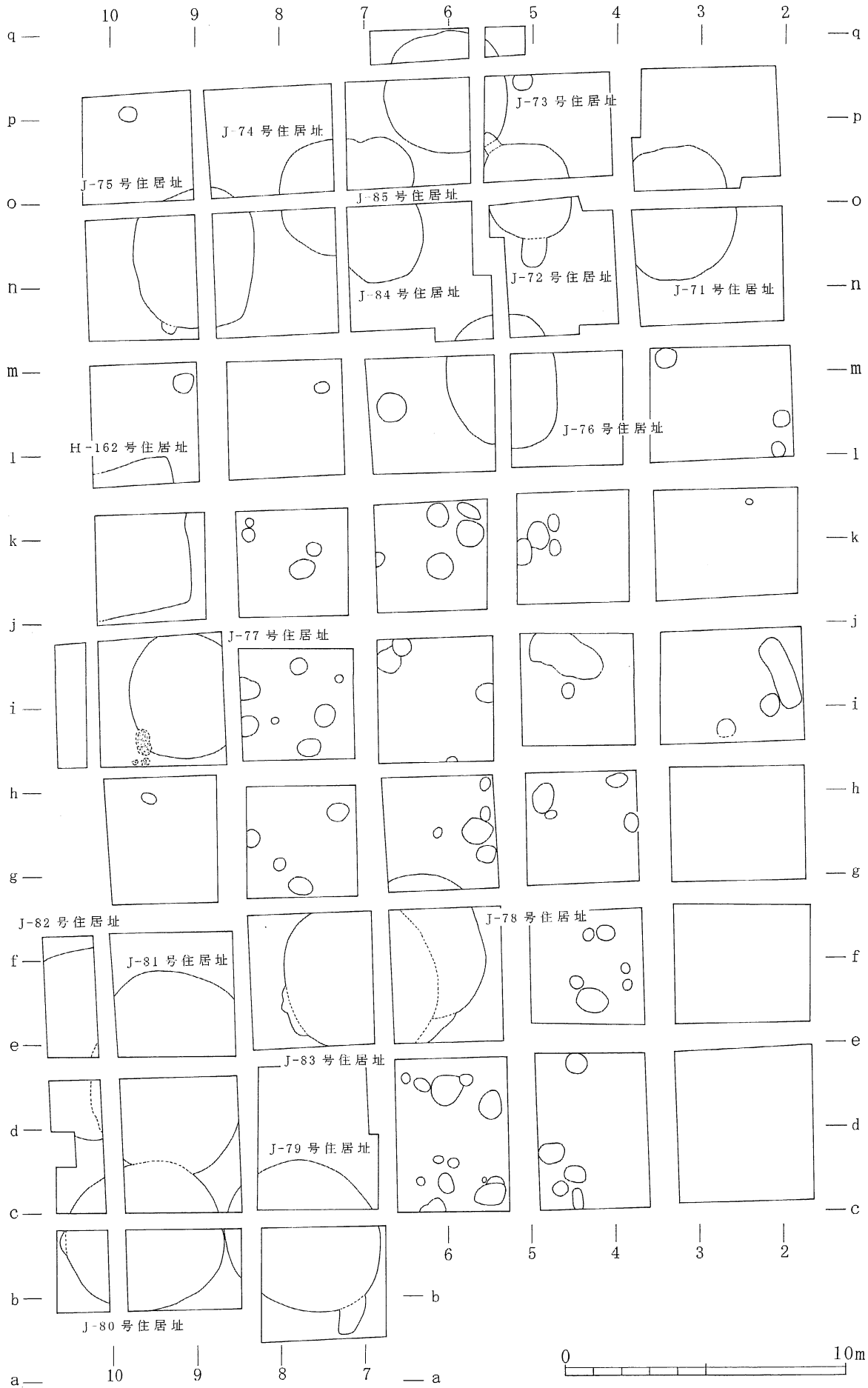
今回の調査で見つかった 15 軒の縄文時代の住居址は、覆土上層から出土した遺物などから、全て縄文時代中期初頭から中葉にかけてに属すると思われる。これは平成 14、16 年度に今回の調査範囲の西側で行われた調査で見ついている住居址と同時期であることが確認され、集落の範囲がさらに東に広がっていることが分かった。

縄文時代の住居が検出された位置は、調査区の北側と南側に集中しており、その中間の一带には、住居が検出されなかった代わりに土坑が多数検出されている。このような状況から、住居址の配置は、土坑が検出された中央を取り囲むように環状を成す可能性も考えられ、その場合、住居の広がりにはさらに東へと続いているものと推定される。

なお、1 軒検出された平安時代の住居址については、覆土からの遺物のごくわずかであったため、詳細な時期についてはつかめなかった。

平成 20 年度発掘調査検出遺構一覧

住居名	所属時期		住居形態	大きさ 南北・東西 () 内の値は推定	備考
J -71 号	縄文時代中期中葉	狹沢期	楕円形	4.8 × (3.9)	
J -72 号	縄文時代中期初頭	九兵衛尾根期	楕円形	3.4 × (3.0)	
J -73 号	縄文時代中期中葉	狹沢期	円形	4.4 × 4.4	
J -74 号	縄文時代中期初頭～中葉	九兵衛尾根～狹沢期	円形か？	4.2 × 不明	J -84、85 号と重複
J -75 号	縄文時代中期初頭	九兵衛尾根Ⅱ期	楕円形	5.1 × 4.3	
J -76 号	縄文時代中期中葉	新道期	楕円形	4.8 × 3.9	
J -77 号	縄文時代中期中葉	藤内Ⅰ期	楕円形か？	4.4 × 不明	
J -78 号	縄文時代中期中葉	新道期	楕円形か？	5.2 × 不明	J -83 号と重複
J -79 号	縄文時代中期中葉	藤内Ⅰ期	円形	5.0 × 5.0	大量の土器廃棄
J -80 号	縄文時代中期中葉	井戸尻Ⅲ期	楕円形	5.2 × 5.6	
J -81 号	縄文時代中期中葉	新道期	楕円形	7.3 × 不明	J -82 号と切り合う
J -82 号	縄文時代中期中葉	狹沢期	不明	(6.8) × 不明	
J -83 号	縄文時代中期中葉	井戸尻Ⅰ期	不明	不明	
J -84 号	縄文時代中期初頭～中葉	九兵衛尾根～狹沢期	不明	不明	
J -85 号	縄文時代中期初頭～中葉	九兵衛尾根～狹沢期	円形か？	(2.5) × (2.5)	
H -162 号	平安時代	—	方形か？	5.3 × 不明	



第3図 平成20年度発掘調査区全体図

5 遺構と遺物

今回の調査では縄文時代の住居址が 15、平安時代と思われる住居址 1、78 基の土坑が検出された。調査方針により、J -79 号住居址以外については、検出面より下は掘り下げを行っていないため、調査によって得られた情報は限られているが、遺構の検出状況および出土遺物について簡単に述べてみたい。なお、各住居址の時期については、主に覆土最上層面から見つかった土器片から判断したため、必ずしも正確とは言えない可能性があることをあらかじめ述べておく。

なお、住居址の平面図内に記載されている●は土器片の出土位置を、△は石器の出土位置を示しており、横の数字はそれぞれ拓本図・石器写真内の番号と対応している。

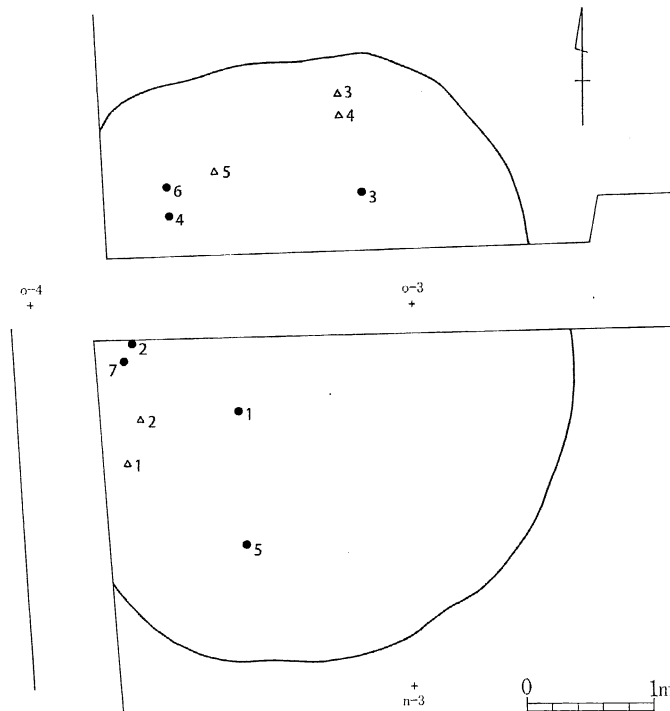
J -71 号住居址 (第 4、5 図)

遺 構 本址は調査区北東、n - 2・3、o - 2・3 グリッドに位置する。地表面より約 40cm 下位の暗褐色土層中において、住居の輪郭が確認された。

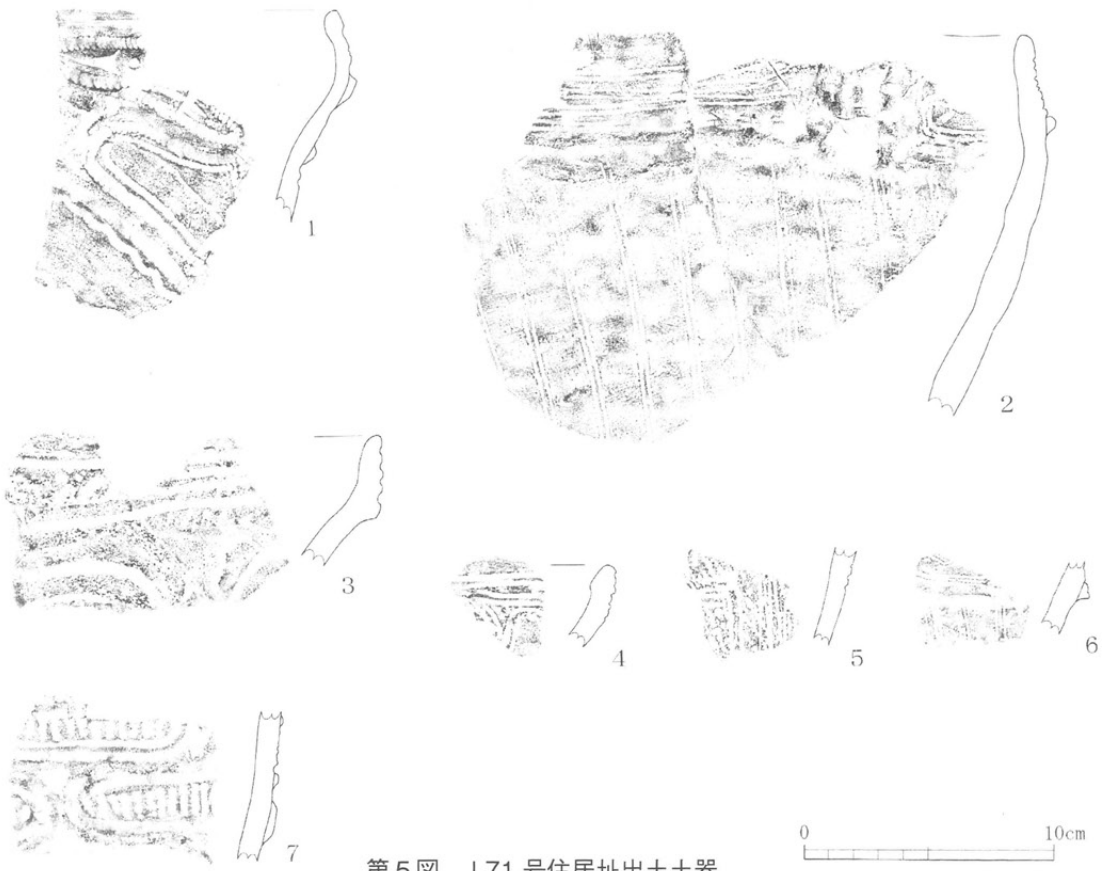
西側の一部は、グリッド間のベルトの下にあたり検出できなかったが、本址の規模は、南北 4.8 m、東西 3.8 ~ 4.0 m を測る楕円形を呈する住居址と推定できる。一部、耕作による攪乱が認められ、覆土から遺構面にまで達し破壊を受けている可能性がある。

本址の時期は、覆土の上層から見つかった土器片から縄文時代中期中葉 I (貉沢) 期と考えられる。

遺 物 覆土上層からの遺物の出土はまばらで少ない。縄文時代中期前半の土器片がわずかに出土しているほか、石鏃や石匙、磨製石斧などの石器が見つかった。



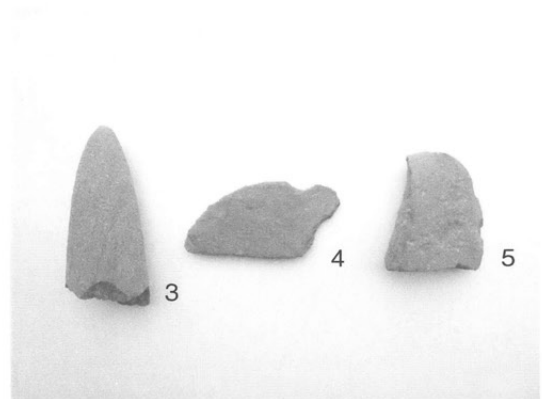
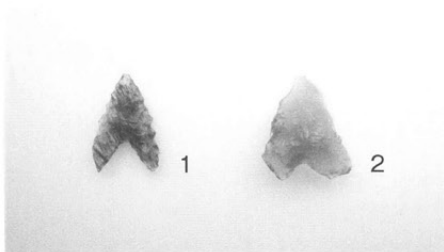
第 4 図 J-71 号住居址



第5図 J-71 号住居址出土土器



J-71 号住居址検出状況 (北から)



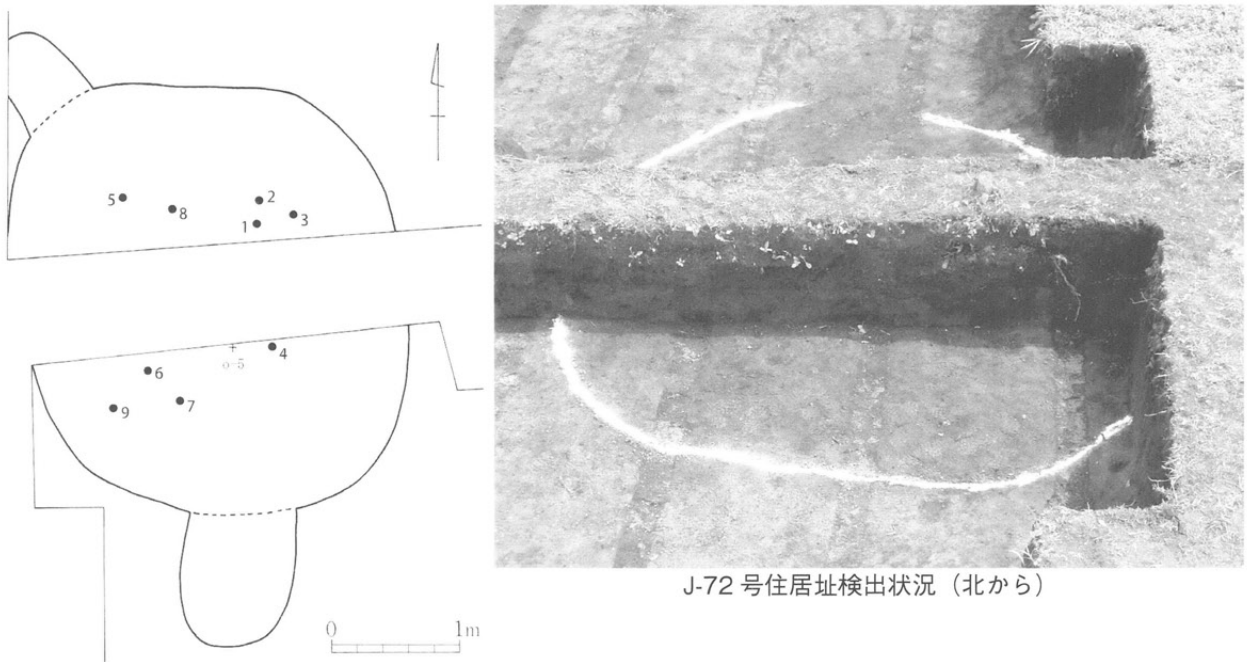
J-71 号住居址出土石器

J-72 号住居址 (第 6、7 図)

遺 構 本址は調査区北東、n-4・5、o-4・5 グリッドに位置する。検出面は地表より 40～45cm ほど下がった暗褐色土層で、周囲と色調の異なる住居の輪郭が確認された。検出された部分から推定して、南北 3.4 m、東西約 3.0 m を測る、楕円形を呈する住居址と思われる。南と北西に、住居址の外周から張り出したような楕円形の落ち込みの範囲が確認されたが、本址との関係を探ることは出来なかった。

覆土からの出土遺物により、本址の時期は縄文時代中期初頭 I～II (九兵衛尾根) 期と考えられる。

遺 物 覆土の中央付近から縄文時代中期初頭の土器片が出土しているのみである。



J-72 号住居址検出状況 (北から)

第 6 図 J-72 号住居址



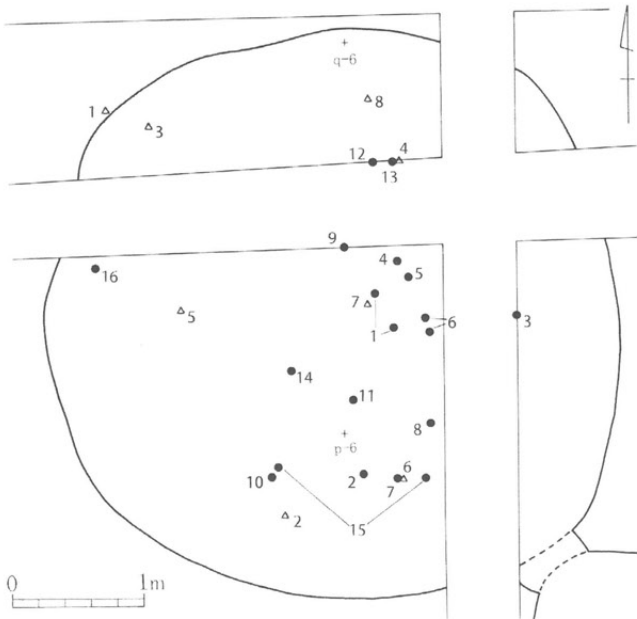
第 7 図 J-72 号住居址出土土器

J-73号住居址（第8、9図）

遺構 調査区北のo-5・6、p-5・6グリッドに位置する。地表より40cmほど掘り下げたところで、暗褐色土層中からやや黒みがかった色調の住居の輪郭が現れた。北側を拡張して掘り下げ、輪郭全体を検出したところ、南北、東西ともに約4.4mを測る円形の住居であることが確認できた。今回見つかった他の大部分の住居址同様、耕作による攪乱が認められた。

覆土からの出土遺物により、本址の時期は縄文時代中期中葉I（貉沢）期と考えられる。

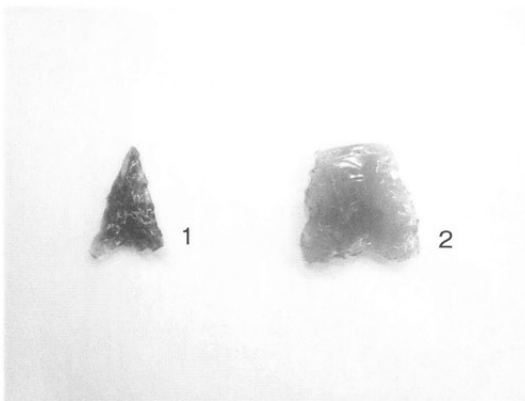
遺物 覆土中央付近から比較的遺物が多く出土している。土器は縄文中期前半の深鉢の小片がほとんどで、石器では石鏃のほか打製石斧、磨石、敲石、石皿などが出土している。



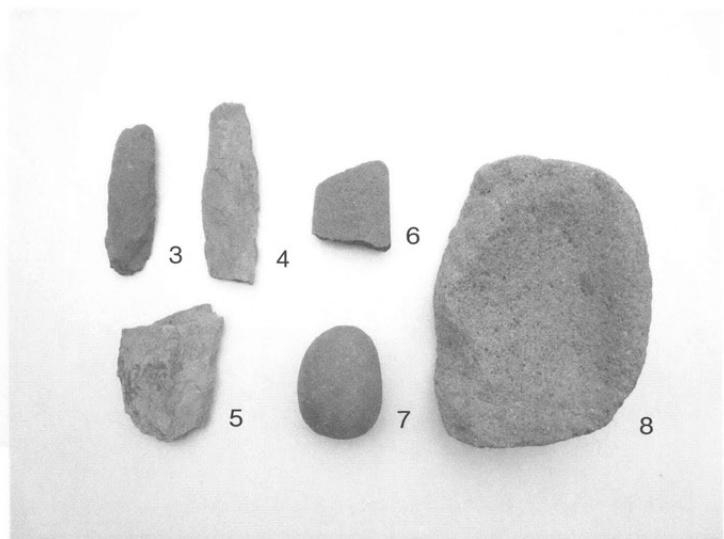
第8図 J-73号住居址

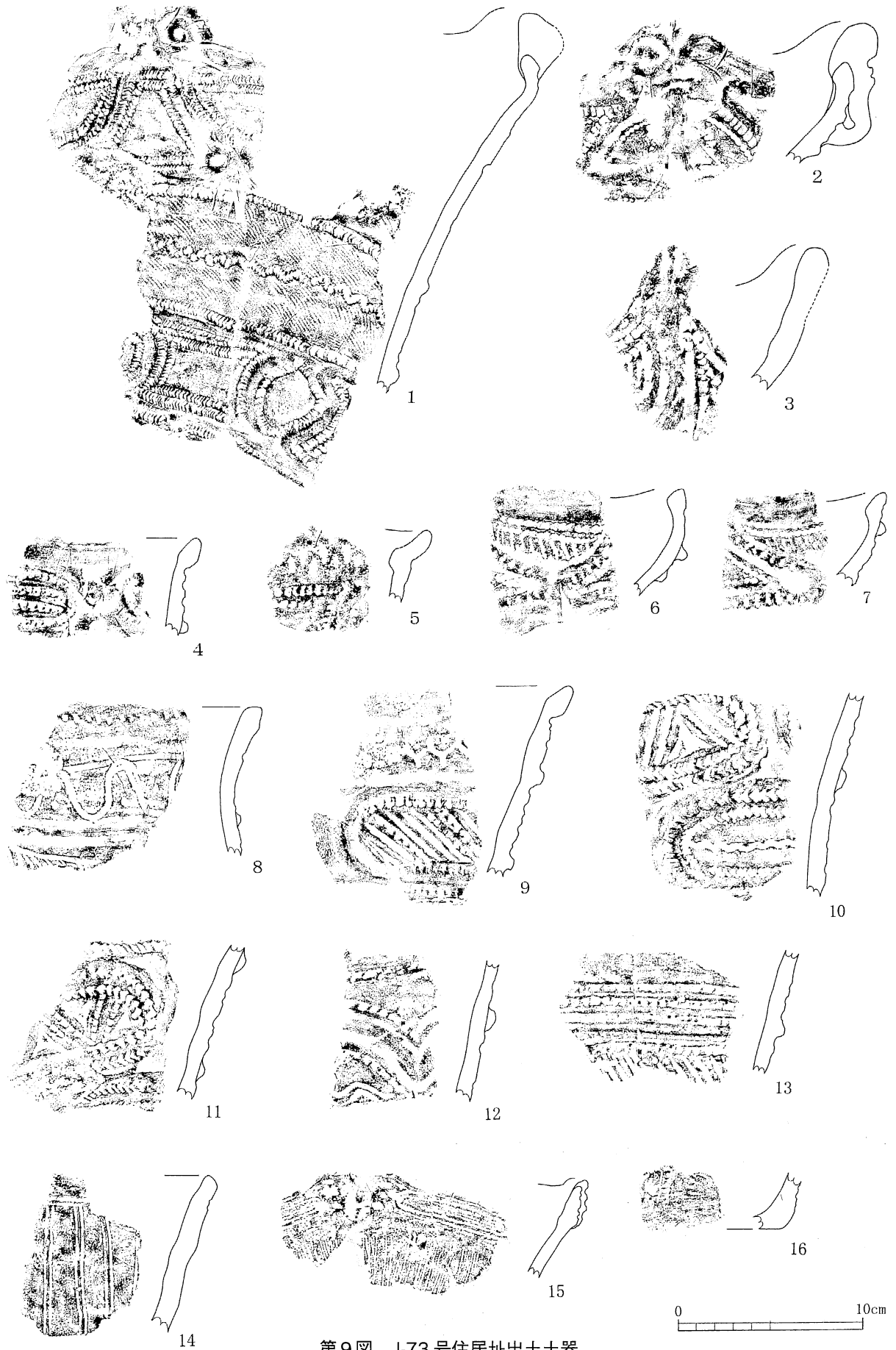


J-73号住居址検出状況（北から）



J-73号住居址出土石器





第9图 J-73 号住居址出土土器

J-74、84、85号住居址（第10、11図）

地表より40～50cm掘り下げたところ、落ち込みが確認された。当初は1軒の住居址と思われたが、検出された輪郭の形状が不整であったことや、付近の土層を観察した結果、最終的に3軒の住居址が切り合っていると判断した。よってここでは、J-74、84、85号住居とする。しかしながら、いずれの住居も覆土の上層から出土した遺物の時期にそれほど差はなく、検出面より下は掘り下げを行っていないため、はっきりとしたことは分からない。

J-74号住居址

遺構 調査区北側のn-7、o-7グリッドに位置する。検出部分の大きさは南北4.2mを測るが、東側はJ-84、85号住居址と重複しているため、全体のプランは不明である。

遺物から、縄文時代中期初頭～中葉I（九兵衛尾根～猪沢）期にかけての住居址と考えられる。

遺物 中央のベルト付近から、縄文中期初頭から中期前半の土器片が出土している。

J-84号住居址

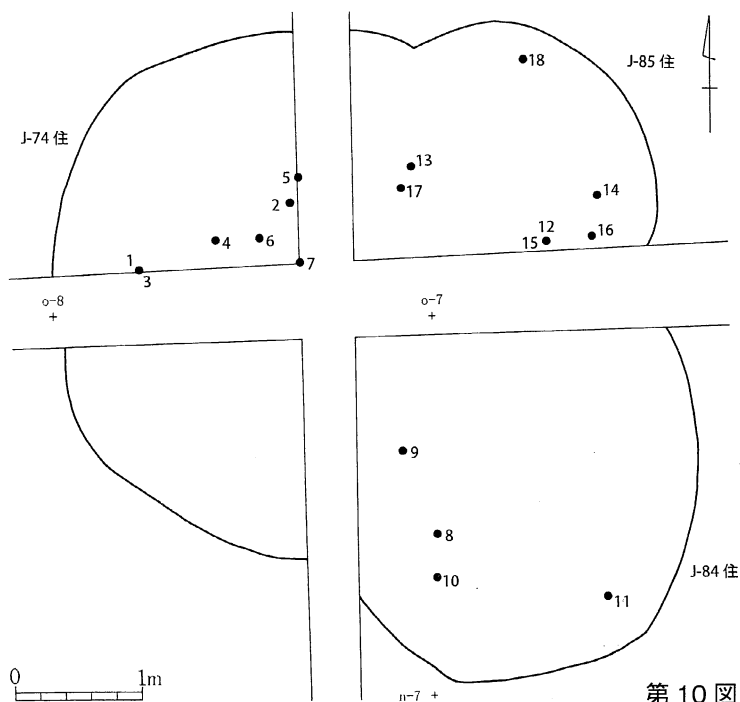
遺構 n-6、7グリッドに位置する。北側をJ-85号住居と、西側をJ-74号住居と切り合っている。全体のプランは不明である。範囲内から見つかった出土遺物から判断して、縄文時代中期初頭～中葉I（九兵衛尾根～猪沢）期の住居と考えられる。

遺物 わずかだが、縄文時代中期初頭～中期前半の土器片が見つまっている。

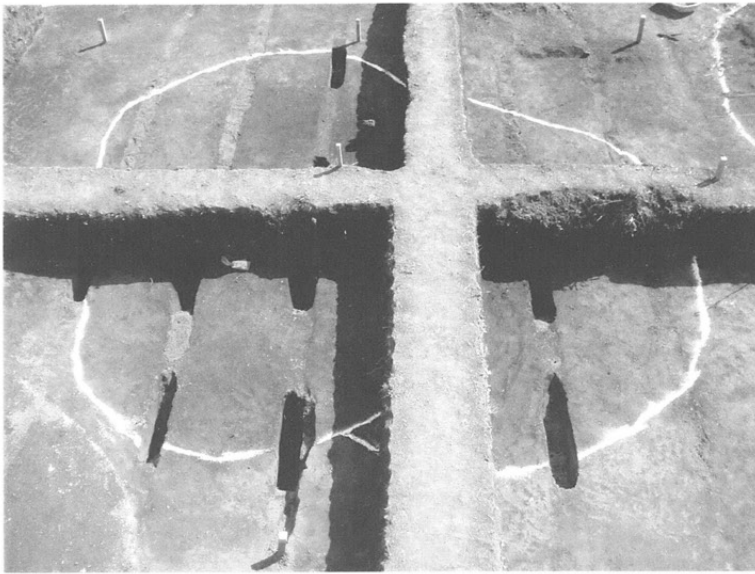
J-85号住居址

遺構 o-6、7グリッドに位置する。北から東側にかけてのみ検出できた。大部分が他の住居址と切り合っているためプランの特定は難しいが、検出範囲から、南北・東西ともに2.5mほどと推定され、3軒の中では一番小規模の住居であろう。時期は、縄文時代中期初頭～中葉I（九兵衛尾根～猪沢）期の住居と考えられ、他の重複している住居と変わらない。

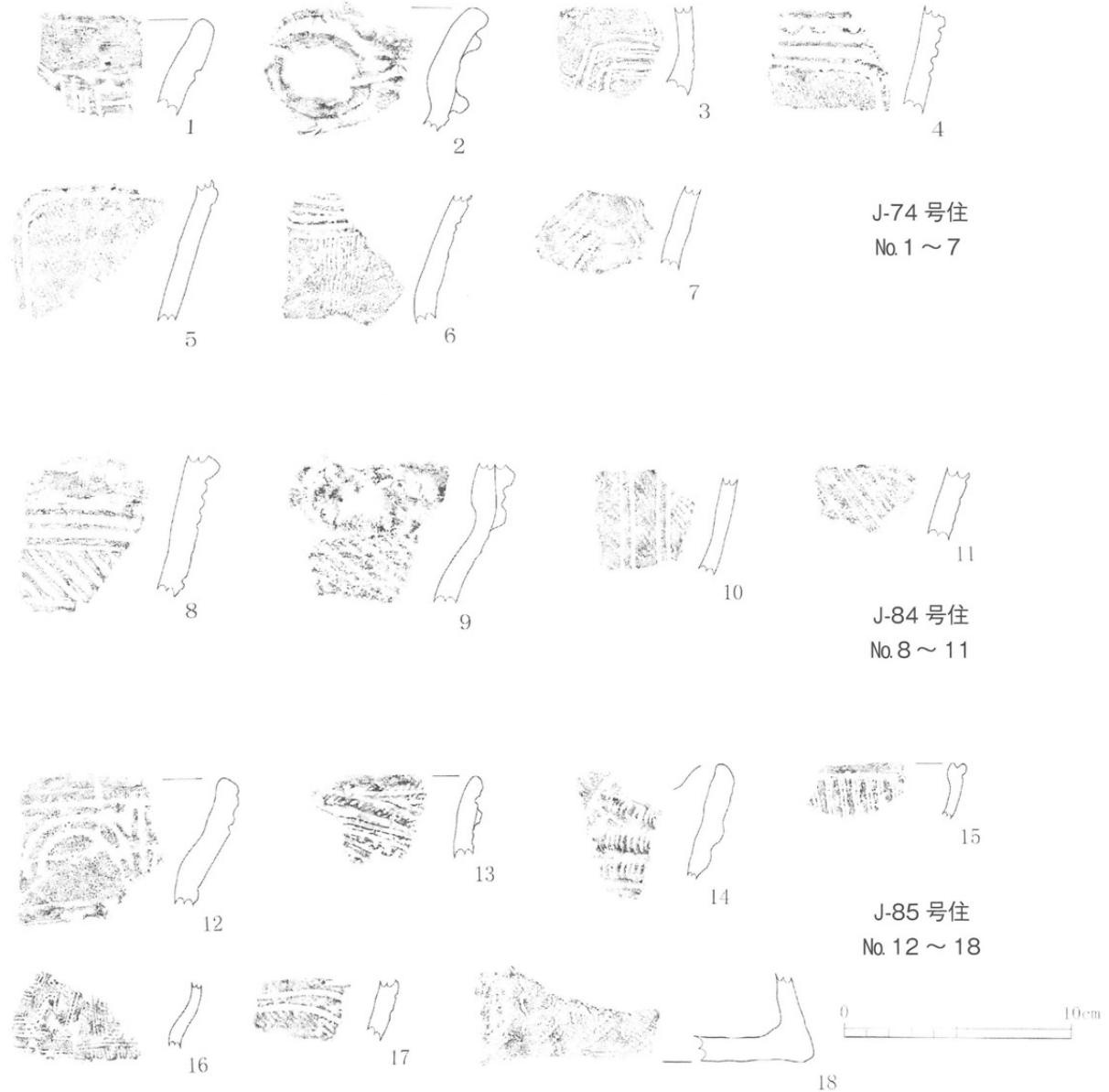
遺物 土器は縄文中期前半のものがほとんどで、いずれも小片である。



第10図 J-74・J-84・J-85号住居址



J-74・84・85号住居址検出状況
(北から)

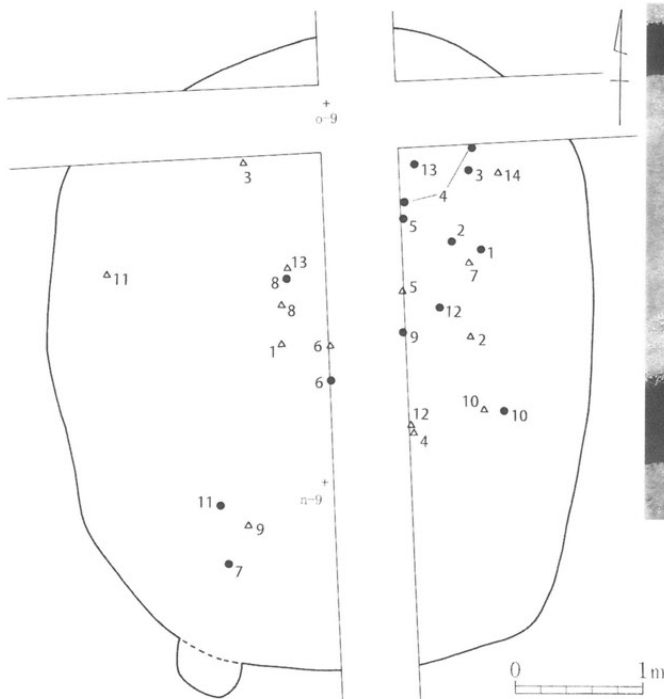


第11図 J-74・J-84・J-85号住居址出土土器

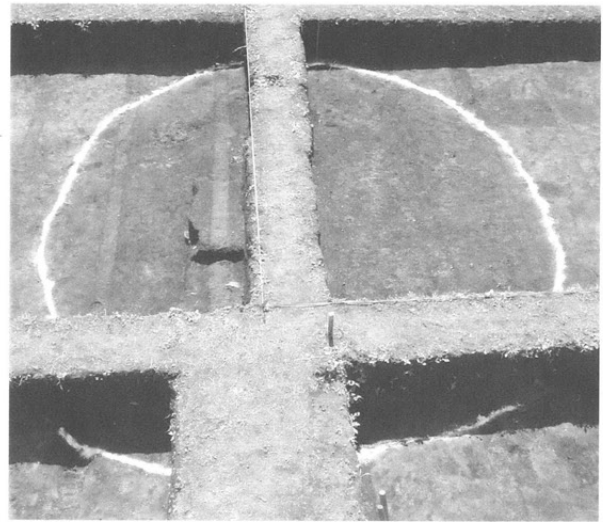
J-75 号住居址 (第 12、13 図)

遺構 調査区北西の m-8・9、n-8・9、o-8・9 グリッドにわたって検出された比較的大型の住居址である。検出面までの深さは地表より 35 cm ほどと比較的浅く、検出部分の形状は、南北 5.1 m、東西 4.3 m の楕円形を呈する。覆土からの出土遺物により、本址の時期は縄文時代中期初頭Ⅱ（九兵衛尾根Ⅱ）期と考えられる。

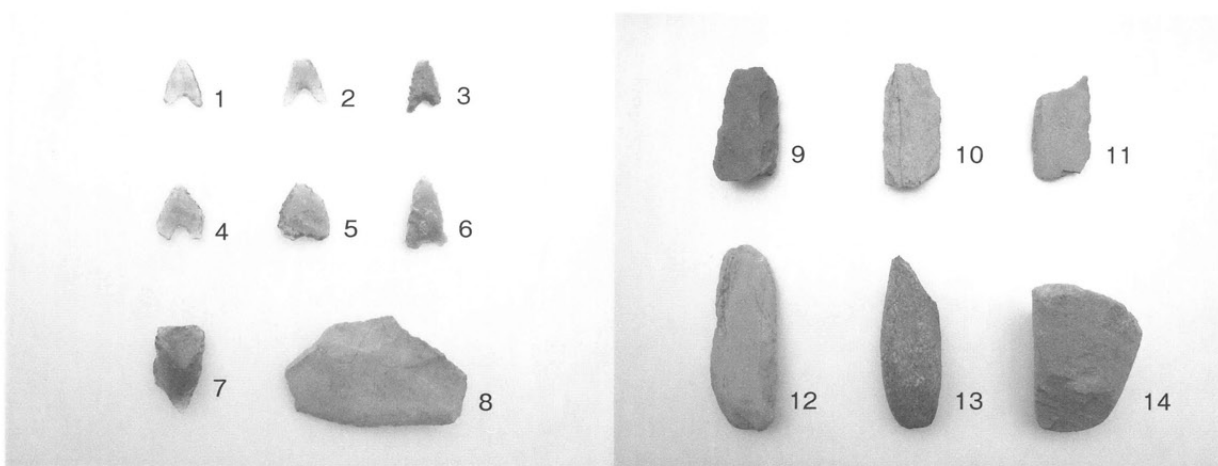
遺物 地表から掘り下げている段階から多くの遺物が出土している。土器は、縄文中期初頭のもの为主で、比較的大きい破片が見つまっている。石器は、黒曜石製の石鎌が 6 点と多く見つかったほか、石錐、搔器、打製石斧、敲石など多種にわたる。



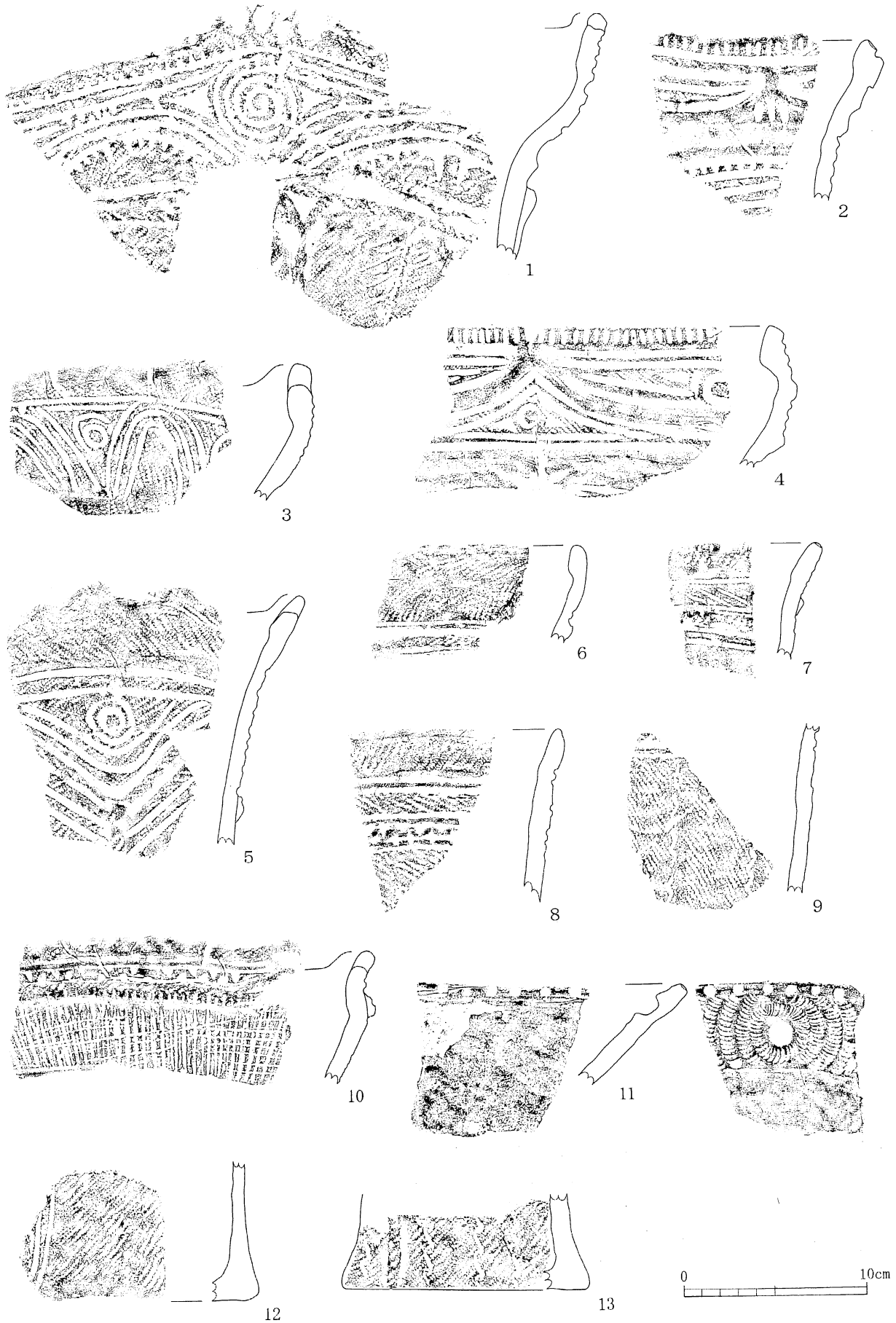
第 12 図 J-75 号住居址



J-75 号住居址検出状況 (北から)



J-75 号住居址出土石器

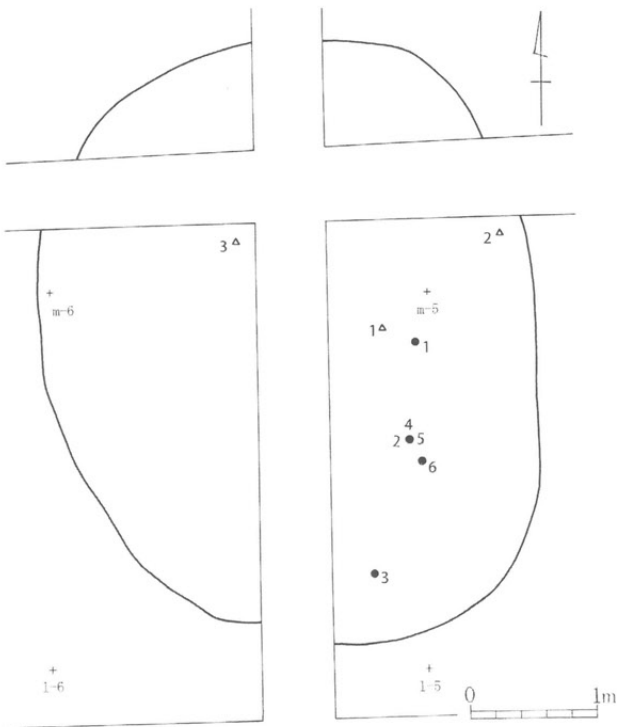


第 13 图 J-75 号住居址出土土器

J-76 号住居址 (第 14、15 図)

遺 構 調査区北の 1-4・5、m-4・5 グリッドに位置する。地表より 45～50 cm ほど下層の暗褐色土層中から輪郭が確認された。検出部分の形状は、南北 4.8 m、東西 3.9 m の楕円形を呈する。縄文時代中期中葉Ⅱ（新道）期の土器片がわずかに見つかっており、該期の住居址と言えよう。

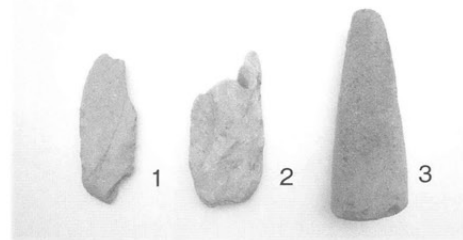
遺 物 中央やや東寄りから多く遺物が見つまっている。ほとんどが縄文時代中期中葉の土器片で、そのほか打製石斧などが見つまっている。



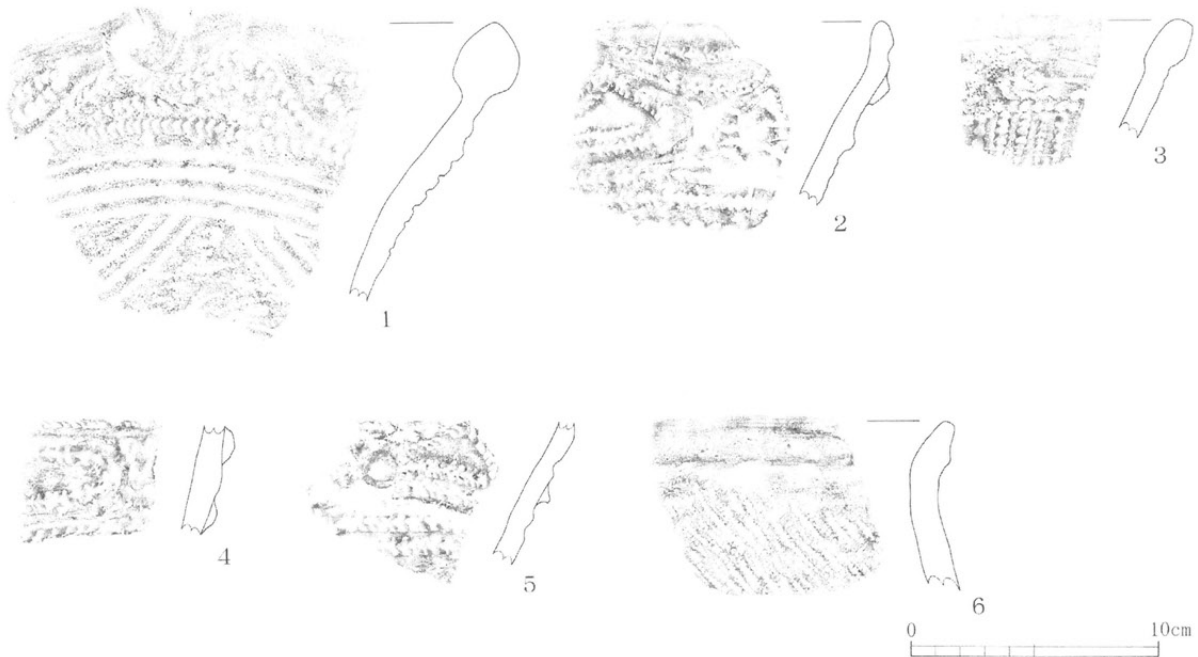
第 14 図 J-76 号住居址



J-76 号住居址検出状況 (南から)



J-76 号住居址出土石器

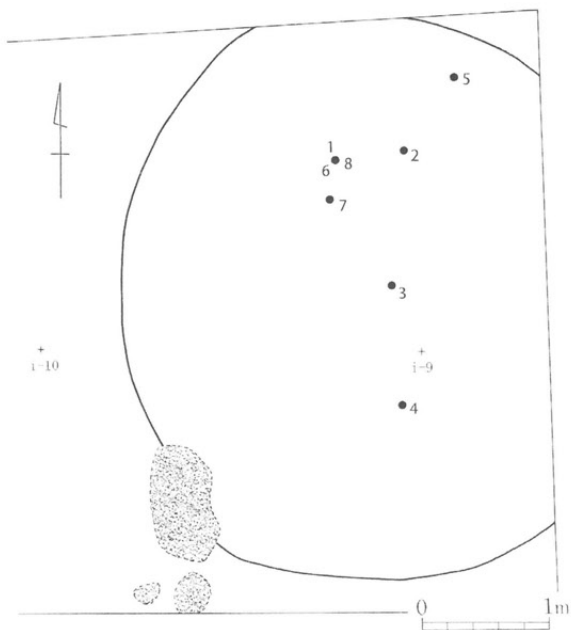


第 15 図 J-76 号住居址出土土器

J-77号住居址 (第16、17図)

遺構 調査区西側のh-8・9、i-8・9グリッドにかけて検出された。検出レベルは地表より35～40cmと他の住居址の検出レベルと比べて若干浅い。東側の縁は、グリッド間のベルト下を巡っており検出できなかったが、南北に長い楕円形に近いプランと思われる。南西から黒色土と焼土が盛り上がりて堆積している範囲が確認されたほか、西側からは本址の検出レベルと同じ高さで突如ローム土をしっかりと固めた箇所が認められた。出土遺物は、縄文時代中期中葉Ⅲ(藤内Ⅰ)期の土器片がわずかに見つかり、該期の住居址と言えよう。

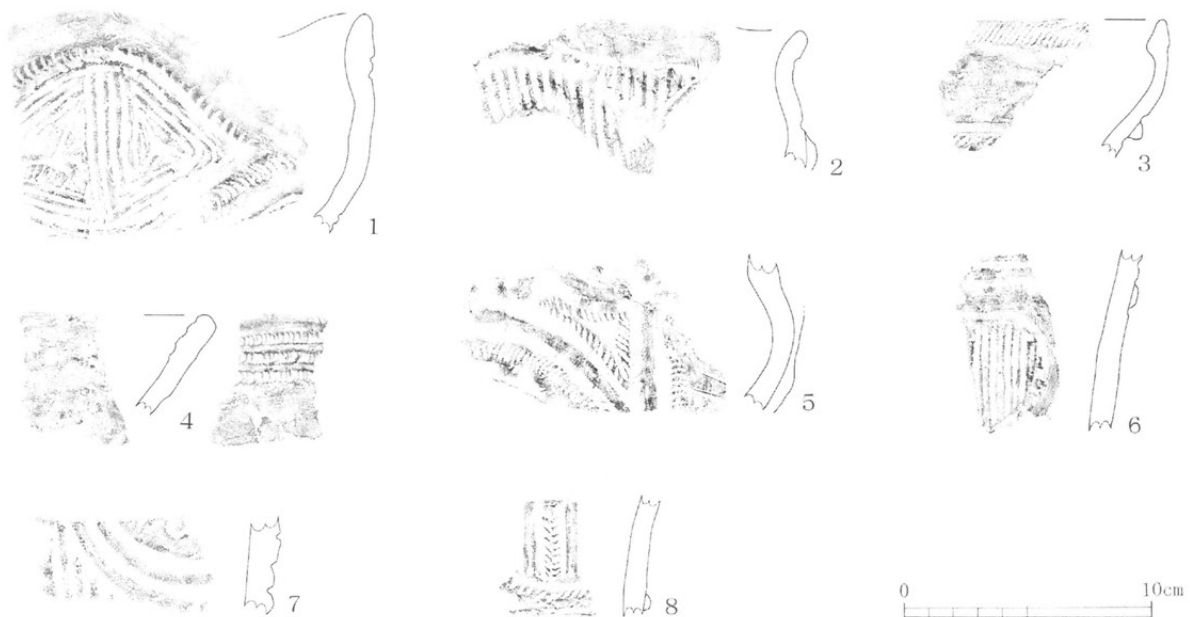
遺物 遺物の量は少なく、縄文時代中期中葉の土器片と打製石斧などが見つっている。



第16図 J-77号住居址



J-77号住居址検出状況(南から)

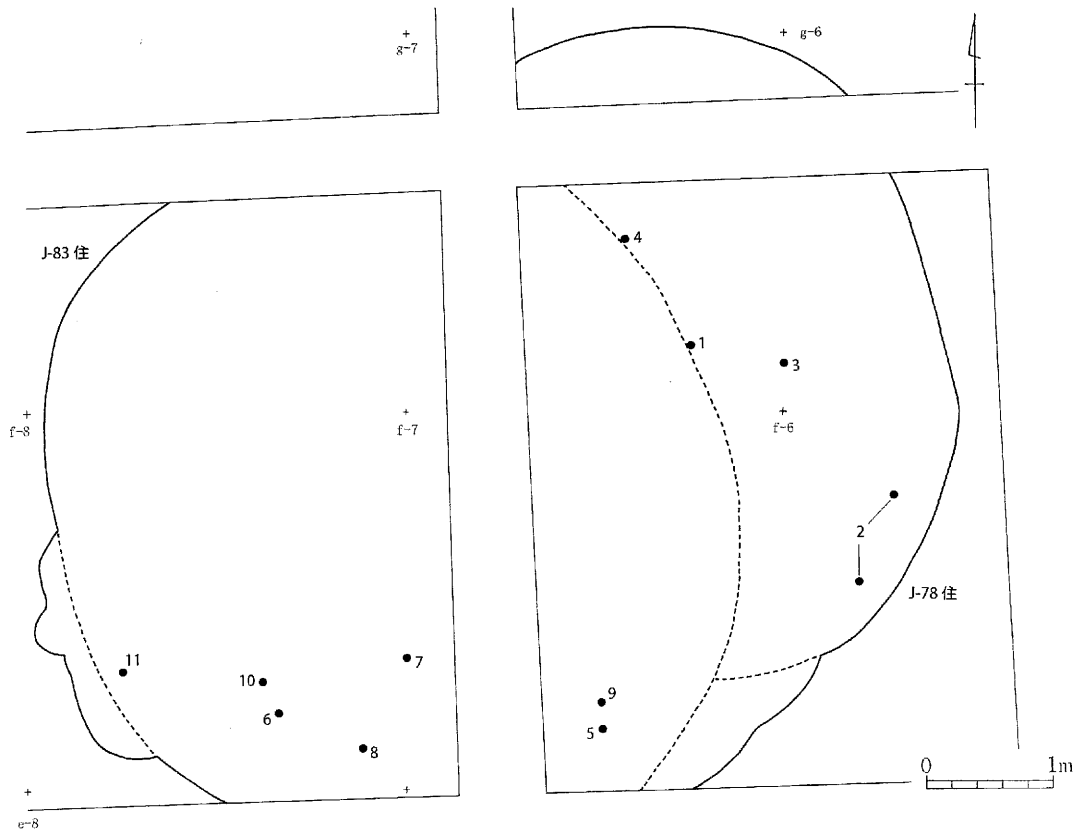


第17図 J-77号住居址出土土器

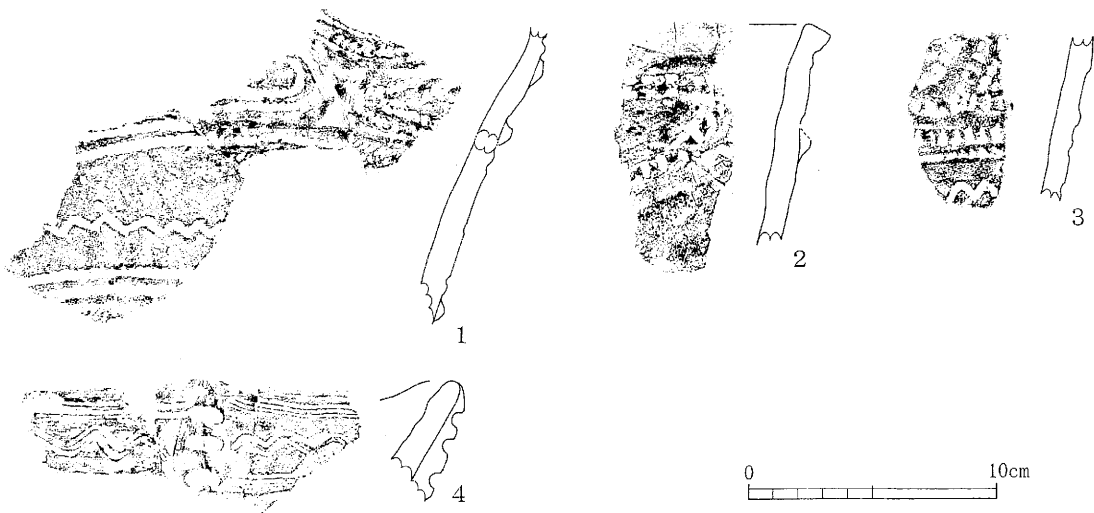
J -78 号住居址 (第 18、19 図)

遺 構 調査区中央からやや南の e - 5・6、f - 5・6 グリッドに位置する。地表から 55 cm ほど掘り下げたところ、大きな住居の輪郭が現れた。検出当初は 1 軒と思われたが、覆土上層から見つかった土器片を確認したところ、検出範囲の東側と西側で土器の時期に差が認められたため、西側を J - 83 号住居とし、本址と切り合っていると判断した。したがって本址の形状は不明である。出土した遺物から縄文時代中期中葉Ⅱ (新道) 期の住居址と考えられる。

遺 物 覆土上層から縄文時代中期中葉の土器片がわずかに見つかったに過ぎない。



第 18 図 J-78・J-83 号住居址



第 19 図 J-78 号住居址出土土器



J-78・83号住居址検出状況（北から）



J-79号住居址検出状況（南から）

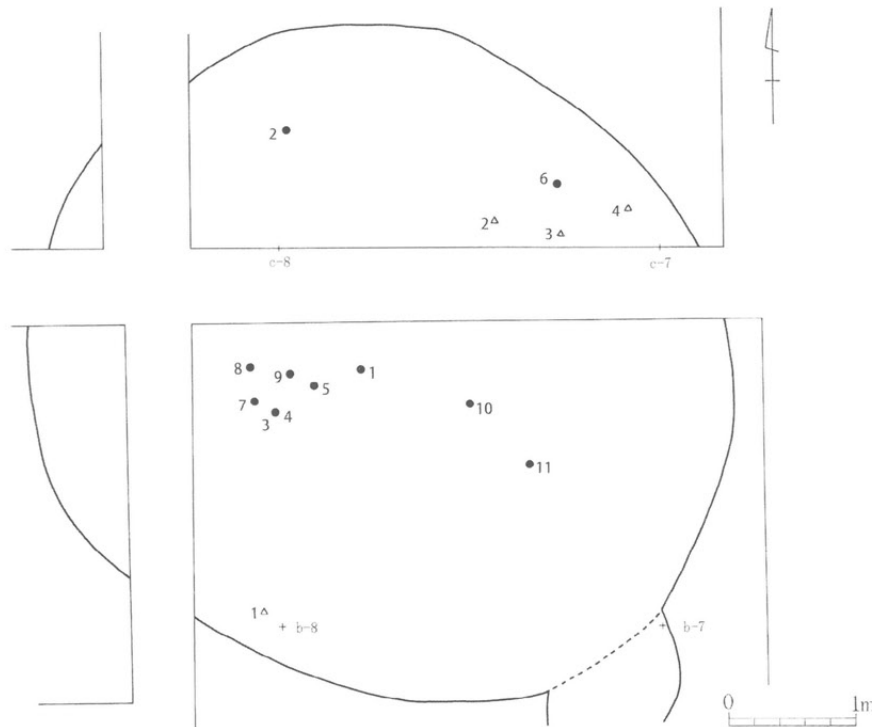


J-79号住居址遺物出土状況

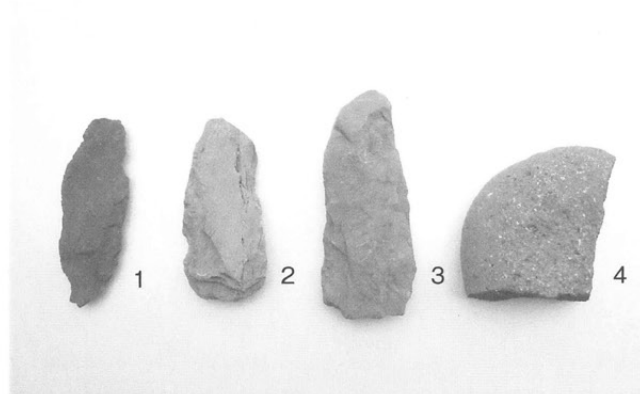
J-79号住居址 (第20、21図)

遺構 調査区南端のa-6・7・8、b-6・7・8、c-6・7・8グリッドに位置する。地表からわずかの部分を掘り下げている段階から大きな土器片が多量に出土し、早い段階から住居址の存在を認識できていたが、最終的に地表より45cmほど下層において輪郭が検出できた。南側を拡張し全体の輪郭を検出した結果、東西・南北ともに5.0mの円形の住居であることが分かった。住居内の一部がブドウ畑の支柱によって深く掘り込まれているが、保存状態は比較的良好であった。本址については、検出面の遺物の出土状態から、今回の調査目的の一つである土器大量廃棄の住居である可能性が高まったため、その状況が確認できるまで覆土の掘り下げを行った。なお、出土遺物の取り上げは覆土上層のものだけとし、それ以外は出土状態を確認した後、再び埋め戻した。時期は、出土した遺物によって縄文時代中期中葉Ⅲ（藤内Ⅰ）期の住居址であることが分かった。

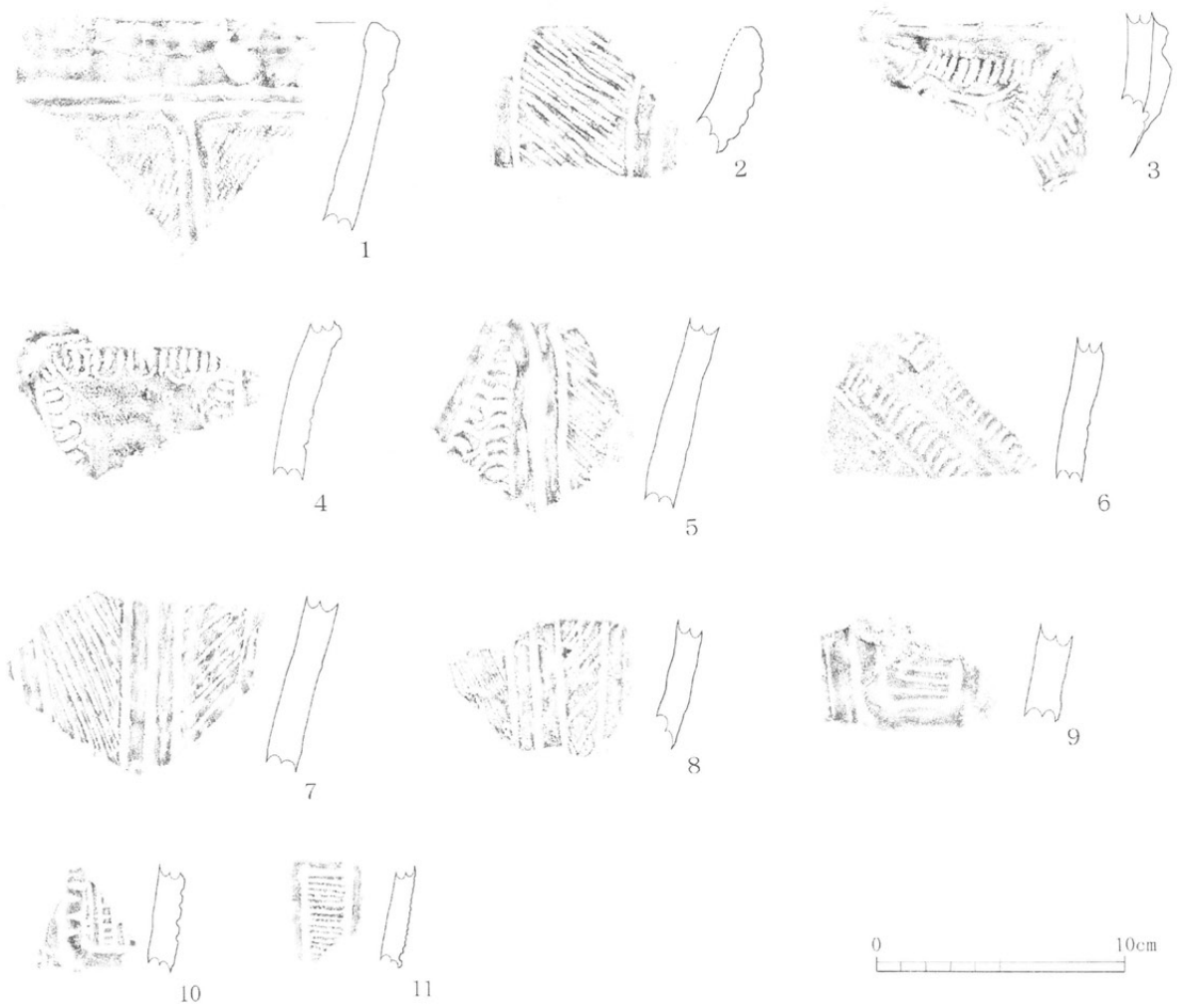
遺物 覆土中からは大量の遺物が認められたが、上層から顔を出している遺物以外は取り上げを行っていない。取り上げた遺物には、縄文時代中期中葉の土器片や打製石斧などがある。



第20図 J-79号住居址



J-79号住居址出土石器



第21図 J-79号住居址出土土器

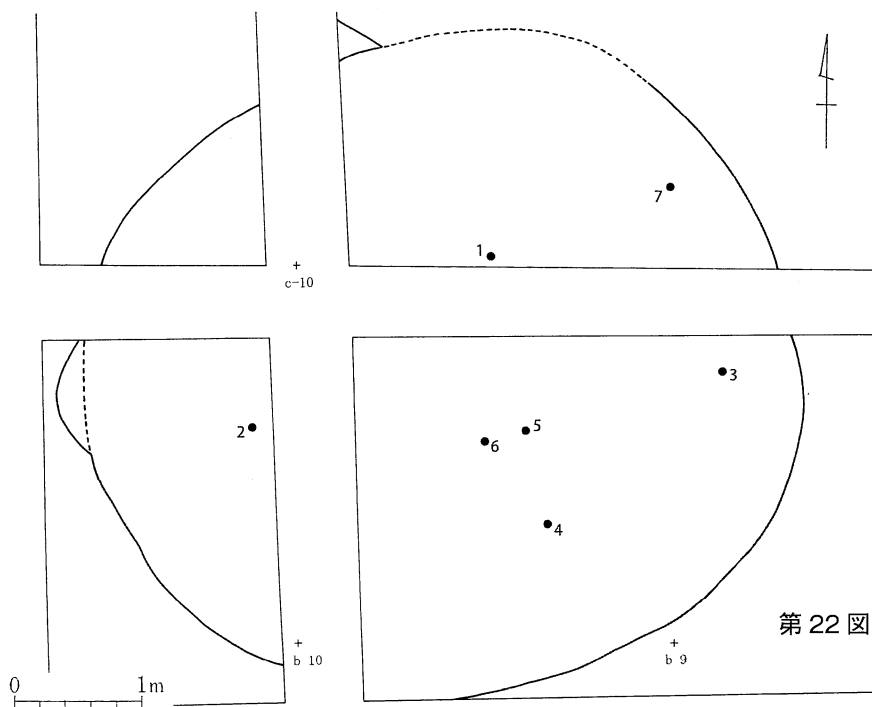
J-80号住居址 (第22、23図)

遺構 調査区南、a-9・10、b-8～10、c-8～10グリッドに位置する。J-79号住居址と同じように、地表を掘り下げている時点で多くの遺物が出土したが、45～50cmほど掘り下げると暗褐色土層中から色調の異なる大きな輪郭が現れた。西側を拡張し、全体の輪郭の検出を試みた結果、南北5.2m、東西5.6mを測る楕円形のプランが検出された。本址の時期は、覆土上層の土器から考えて縄文時代中期中葉Ⅵ（井戸尻Ⅲ）期に該当するであろう。

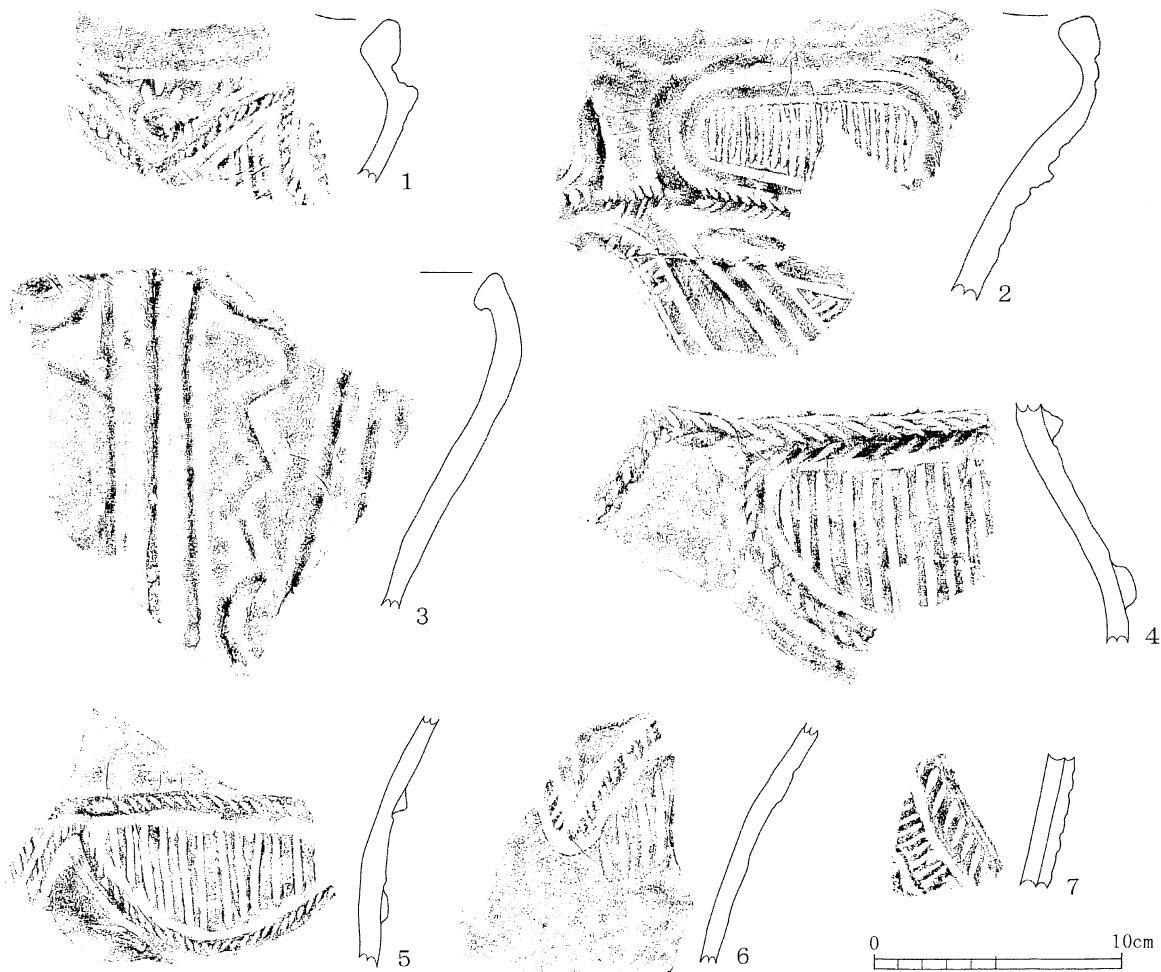
遺物 覆土から点在して見ついている。いずれも比較的大きな土器片で、縄文時代中期中葉のものが大半を占める。



J-80・81・82号住居址検出状況（南から）



第 22 图 J-80 号住居址



第 23 图 J-80 号住居址出土土器

J-81号住居址 (第24、25図)

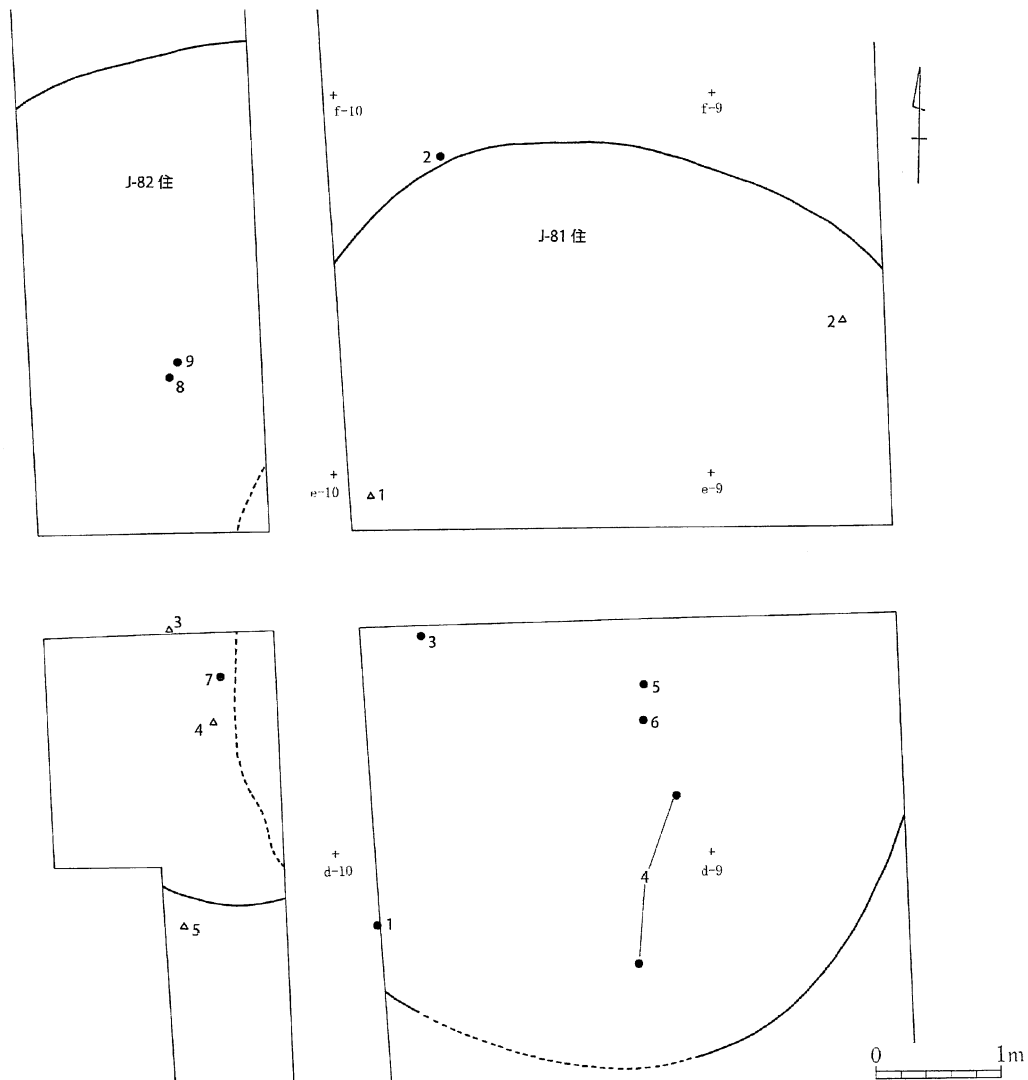
遺構 調査区西側のc-8・9、d-8~10、e-8~10グリッドにかけて検出された。検出レベルは地表より40~45cmを測る。西側はJ-82号住居と接し、東側の輪郭はベルト下のため東西の大きさは不明だが、南北の軸の長さは7.3mを測り、今回の調査で最大の住居址である。出土遺物は縄文時代中期中葉Ⅱ(新道)期の土器片がわずかに見つかり、該期の住居址と言えよう。

遺物 縄文時代中期中葉(新道)期の土器片と敲石などが見つかり、いる。

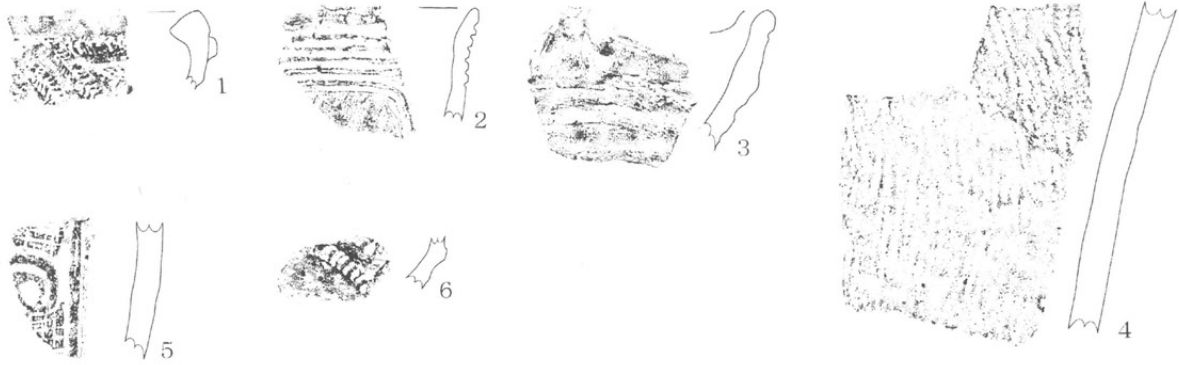
J-82号住居址 (第24、25図)

遺構 調査区西側のc-10、d-10、e-10、f-10グリッドにかけて検出された。J-81号住居の全体を検出するため西側を拡張したところ、J-81号住居とは別の輪郭が現れた。検出された部分がわずかのため、大きさ・プランは特定できない。時期はJ-81号住居より若干古い、縄文時代中期中葉Ⅰ(猪沢)期の土器が見つかり、いることから、該期の住居址と考えられる。

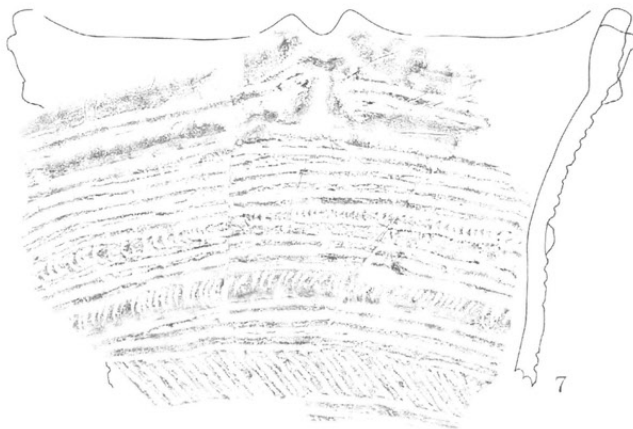
遺物 土器は縄文時代中期初頭~中葉のものが主である。石器は打製石斧のほか黒曜石製の小形の石匙が見つかり、いる。



第24図 J-81・J-82号住居址



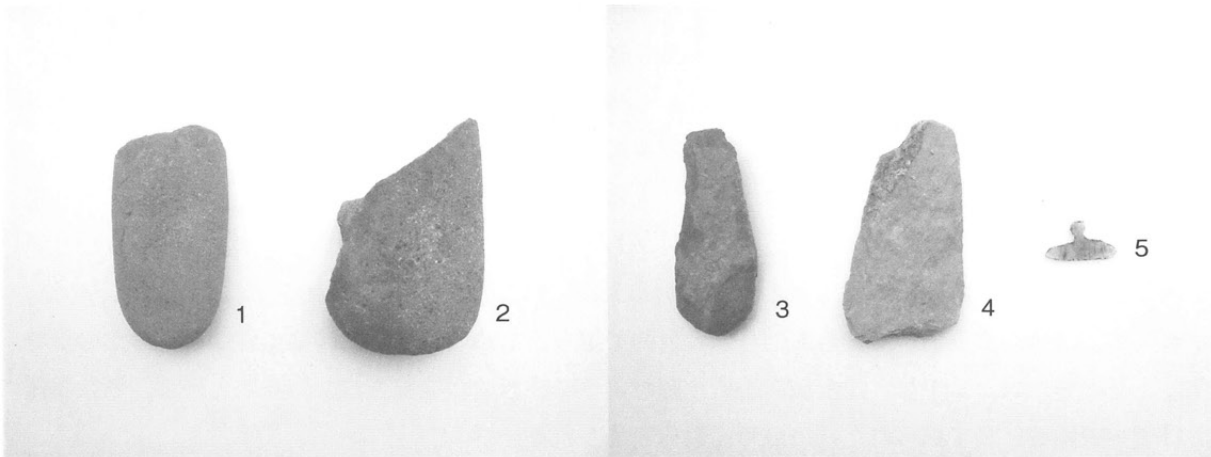
J-81号住
No. 1~6



J-82号住
No. 7~9



第25图 J-81・J-82号住居址出土土器



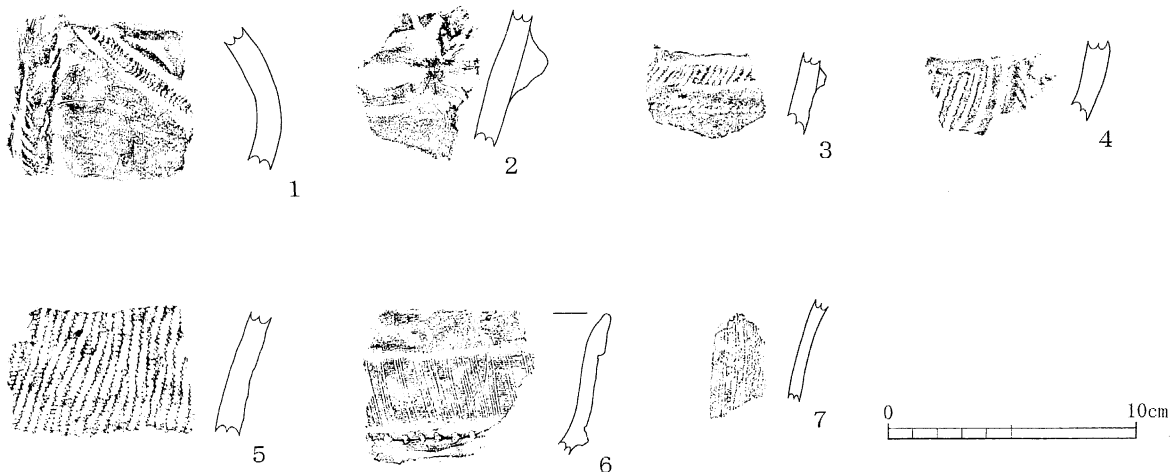
J-81号住居址出土石器

J-82号住居址出土石器

J-83号住居址 (第18、26図)

遺構 調査区南のe-6・7、f-6・7グリッドに位置する。西側のみ輪郭が検出できたが、それ以外はJ-78号住居址と重複しているため分からない。住居の形状や大きさも不明である。本址の時期については、覆土上層から見つかった土器から縄文時代中期中葉V(井戸尻I)期の住居と思われる。

遺物 遺物の量が少なく図示できるものはあまりないが、住居の南側から縄文時代中期中葉の土器片がわずかに見つかった。



第26図 J-83号住居址出土土器

H-162号住居址 (第27図)

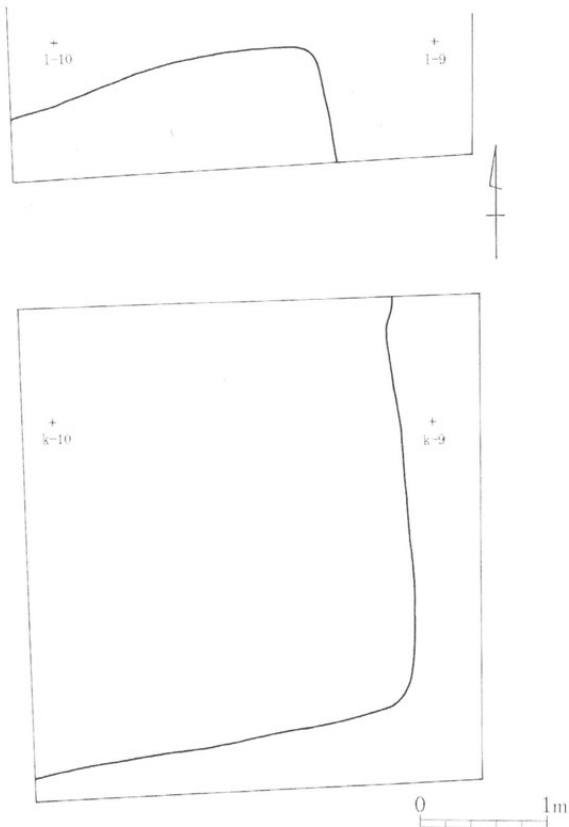
遺構 調査区南のj-9・10、k-9・10グリッドに位置する。今回の調査で唯一の古代の住居址で、地表面から30cm下層において方形の輪郭が現れた。輪郭内部の土色は、縄文時代の住居址を覆っている暗褐色とは異なり黒褐色をしている。西側は調査区外に及んでいると思われるが、調査対象とする時期の住居ではないため、全体の検出は行わなかった。輪郭の形状や、覆土の上層から小さな灰釉陶器片が見つかったことから平安時代の住居址と思われるが、詳細時期については不明である。

遺物 今回の目的は縄文の村地区整備のための調査であるので、対象時期ではない本址の遺物は取り上げを行っていない。

土坑

調査区全体から78基見つかった。大きさ・形状がまちまちであるが、ここでは一括りして土坑として扱うことにする。住居址が調査区の北側から西側を回り、南側まで巡るように検出されたのに対し、土坑の検出された位置は、そのほとんどが調査区の中央から東側にかけての範囲に集中している。形状は円形のものや楕円形のものがあり、大きさも径が20cm程度の小さなものから、長軸が1mを越すものまで様々である。

これら土坑の調査にあたっては、住居址同様内部の掘り下げはせず、位置を図化するだけにとどめた。したがって、これらの土坑がはたしてどういう目的で掘られたものなのか、時期はいつのものなのか特定することは難しい。しかし、出土範囲を取り囲むように住居址が検出されていることから、環状集落における中央墓域として掘られた墓坑の可能性も考えられる。



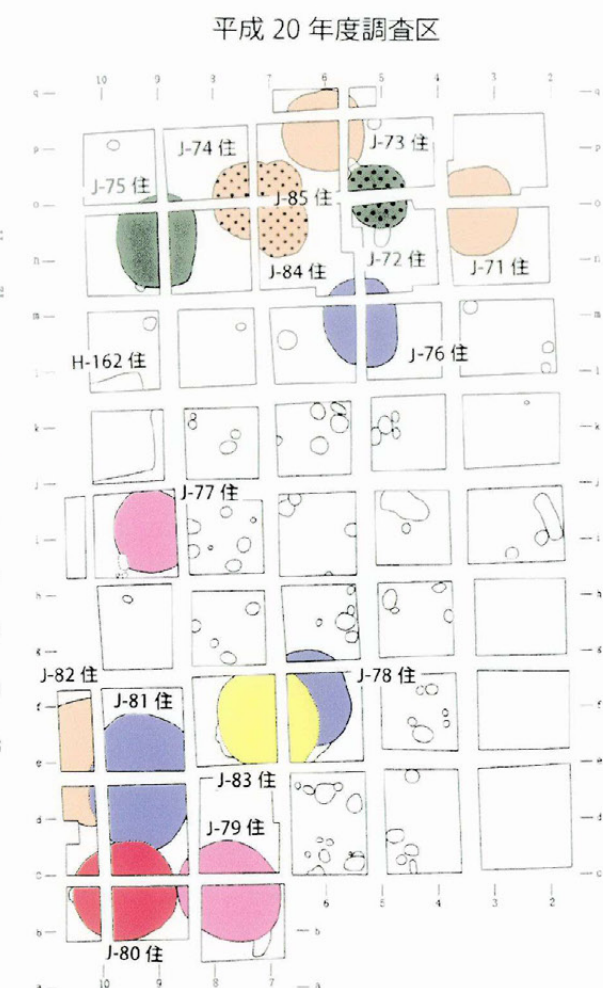
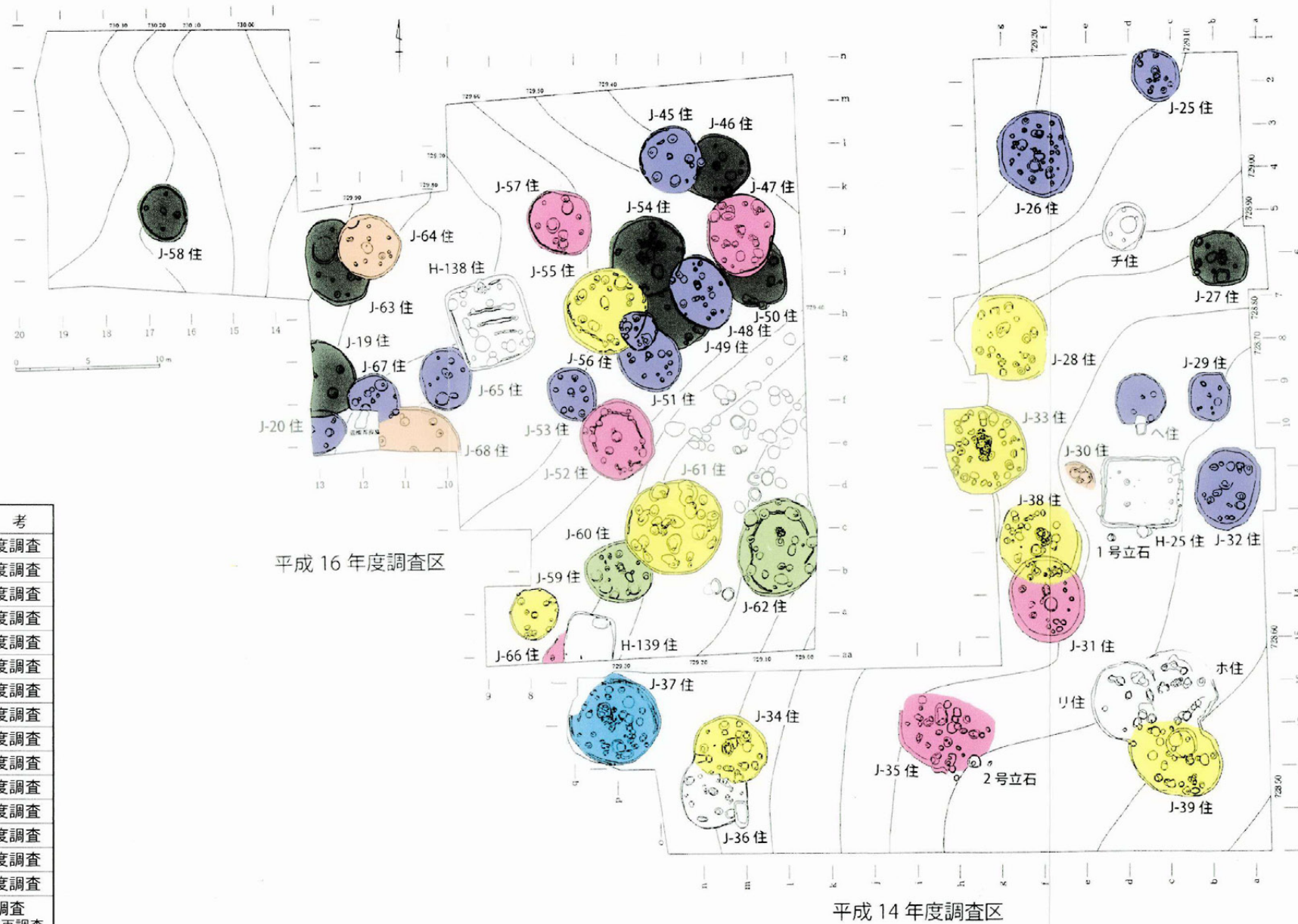
第 27 図 H-162 号住居址



H-162 号住居址検出状況（北から）

その他の遺構

その他の遺構として、J-77 号住居址の西側で見つかったロームの硬化面について少し述べる。検出場所は、調査区中央西端の h-9・10、i-9・10 グリッドの範囲で、地表から 40 cm ほど下位の J-77 号住居址検出面である暗褐色土層中に、突然固く締まったロームの硬化面が現れた。検出部分がわずかのため、詳しいことは分からないが、住居址の床面の一部である可能性もある。周囲から遺物は見つかっていない。



住居名	所属時期		備考
J-25号住	縄文時代中期中葉	新道期	平成14年度調査
J-26号住	縄文時代中期中葉	新道期	平成14年度調査
J-27号住	縄文時代中期初頭	九兵衛尾根II期	平成14年度調査
J-28号住	縄文時代中期中葉	井戸尻I期	平成14年度調査
J-29号住	縄文時代中期中葉	新道期	平成14年度調査
J-30号住	縄文時代中期中葉	猪沢期	平成14年度調査
J-31号住	縄文時代中期中葉	藤内I期	平成14年度調査
J-32号住	縄文時代中期中葉	新道期	平成14年度調査
J-33号住	縄文時代中期中葉	井戸尻I期	平成14年度調査
J-34号住	縄文時代中期中葉	井戸尻I期	平成14年度調査
J-35号住	縄文時代中期中葉	藤内I期	平成14年度調査
J-36号住	縄文時代中期中葉		平成14年度調査
J-37号住	縄文時代中期後葉	曾利I期	平成14年度調査
J-38号住	縄文時代中期中葉	井戸尻I期	平成14年度調査
J-39号住	縄文時代中期中葉	井戸尻I期	平成14年度調査
子号住	縄文時代中期後葉		昭和26年調査 平成14年度再調査
へ号住	縄文時代中期中葉	新道期	昭和26年調査 平成14年度再調査
ホ号住	縄文時代中期中葉		昭和26年調査 平成14年度再調査
リ号住	縄文時代中期中葉		昭和26年調査 平成14年度再調査
H-25号住	平安時代		昭和26年調査 平成16年度再調査
J-19号住	縄文時代中期初頭	九兵衛尾根II期	昭和61年度一部調査 平成16年度再調査
J-20号住	縄文時代中期中葉	新道期	昭和61年度一部調査 平成16年度再調査
J-45号住	縄文時代中期中葉	新道期	平成16年度調査
J-46号住	縄文時代中期初頭	九兵衛尾根II期	平成16年度調査
J-47号住	縄文時代中期中葉	藤内I期	平成16年度調査
J-48号住	縄文時代中期中葉	新道期	平成16年度調査
J-49号住	縄文時代中期初頭	九兵衛尾根II期	平成16年度調査
J-50号住	縄文時代中期初頭	九兵衛尾根II期	平成16年度調査
J-51号住	縄文時代中期中葉	新道期	平成16年度調査
J-52号住	縄文時代中期中葉	藤内I期	平成16年度調査
J-53号住	縄文時代中期中葉	新道期	平成16年度調査
J-54号住	縄文時代中期初頭	九兵衛尾根II期	平成16年度調査
J-55号住	縄文時代中期中葉	井戸尻I期	平成16年度調査
J-56号住	縄文時代中期中葉	新道期	平成16年度調査
J-57号住	縄文時代中期中葉	藤内I期	平成16年度調査
J-58号住	縄文時代中期初頭	九兵衛尾根II期	平成16年度調査
J-59号住	縄文時代中期中葉	井戸尻I期	平成16年度調査
J-60号住	縄文時代中期中葉	藤内II期	平成16年度調査
J-61号住	縄文時代中期中葉	井戸尻I期	平成16年度調査
J-62号住	縄文時代中期中葉	藤内II期	平成16年度調査
J-63号住	縄文時代中期初頭	九兵衛尾根II期	平成16年度調査
J-64号住	縄文時代中期初頭	九兵衛尾根II期	平成16年度調査
J-65号住	縄文時代中期中葉	新道期	平成16年度調査
J-66号住	縄文時代中期中葉	藤内I期	平成16年度調査
J-67号住	縄文時代中期中葉	新道期	平成16年度調査
J-68号住	縄文時代中期中葉	猪沢期	平成16年度調査
H-138号住	平安時代	11世紀	平成16年度調査
H-139号住	平安時代	11世紀	平成16年度調査

第28図 平出遺跡公園「縄文の村」地区 発掘調査検出住居

J-55号住	縄文時代中期中葉	井戸尻I期	平成16年度調査
J-56号住	縄文時代中期中葉	新道期	平成16年度調査
J-57号住	縄文時代中期中葉	藤内I期	平成16年度調査
J-58号住	縄文時代中期初頭	九兵衛尾根II期	平成16年度調査
J-59号住	縄文時代中期中葉	井戸尻I期	平成16年度調査
J-60号住	縄文時代中期中葉	藤内II期	平成16年度調査
J-61号住	縄文時代中期中葉	井戸尻I期	平成16年度調査
J-62号住	縄文時代中期中葉	藤内II期	平成16年度調査
J-63号住	縄文時代中期初頭	九兵衛尾根II期	平成16年度調査
J-64号住	縄文時代中期初頭	九兵衛尾根II期	平成16年度調査
J-65号住	縄文時代中期中葉	新道期	平成16年度調査
J-66号住	縄文時代中期中葉	藤内I期	平成16年度調査
J-67号住	縄文時代中期中葉	新道期	平成16年度調査
J-68号住	縄文時代中期中葉	猪沢期	平成16年度調査
H-138号住	平安時代	11世紀	平成16年度調査
H-139号住	平安時代	11世紀	平成16年度調査

J-71号住	縄文時代中期中葉	猪沢期	平成20年度調査
J-72号住	縄文時代中期初頭	九兵衛尾根期	平成20年度調査
J-73号住	縄文時代中期中葉	猪沢期	平成20年度調査
J-74号住	縄文時代中期初頭～中葉	九兵衛尾根～猪沢期	平成20年度調査
J-75号住	縄文時代中期初頭	九兵衛尾根II期	平成20年度調査
J-76号住	縄文時代中期中葉	新道期	平成20年度調査
J-77号住	縄文時代中期中葉	藤内I期	平成20年度調査
J-78号住	縄文時代中期中葉	新道期	平成20年度調査
J-79号住	縄文時代中期中葉	藤内I期	平成20年度調査
J-80号住	縄文時代中期中葉	井戸尻III期	平成20年度調査
J-81号住	縄文時代中期中葉	新道期	平成20年度調査
J-82号住	縄文時代中期中葉	猪沢期	平成20年度調査
J-83号住	縄文時代中期中葉	井戸尻I期	平成20年度調査
J-84号住	縄文時代中期初頭～中葉	九兵衛尾根～猪沢期	平成20年度調査
J-85号住	縄文時代中期初頭～中葉	九兵衛尾根～猪沢期	平成20年度調査
H-162号住	平安時代	—	平成20年度調査

- 九兵衛尾根期
- 九兵衛尾根II期
- 九兵衛尾根～猪沢期
- 猪沢期
- 新道期
- 藤内I期
- 藤内II期
- 井戸尻I期
- 井戸尻III期
- 曾利I期

史跡平出遺跡発掘調査概報抄録

ふりがな	しせきひらいでいせき							
書名	史跡平出遺跡							
副書名	平成20年度史跡等総合整備活用推進事業に係る発掘調査概報							
巻次								
シリーズ名								
編著者名	小林康男・塩原真樹							
編集機関	塩尻市教育委員会							
所在地	〒399-0738 長野県塩尻市大門七番町4番3号 / TEL0263-52-0280							
発行年月日	2010年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ひらいでいせき 平出遺跡	ながのけんしおじりし 長野県塩尻市 おおあざそうが 大字宗賀 407-1 他	20215	146	36° 6' 1"	137° 56' 54"	2008 7.15 ~ 2009 3.12	1,000 m ²	史跡等総合 整備活用推 進事業に係 わる発掘調 査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
平出遺跡	集落址	縄文時代	竪穴住居址 15軒	縄文土器	縄文時代中期の集落が半円状に広がること、土器を大量廃棄した住居の存在が確認された。			
		平安時代	竪穴住居址 1軒		平安時代の集落の広がりを確認できた。			

史跡 平出遺跡

—平成20年度史跡等総合整備活用推進事業に係る発掘調査概報—

平成22年3月31日 発行

発行 長野県塩尻市大門七番町4番3号
塩尻市教育委員会

